

科目名		科目時間総数	教員名
人間の尊厳と自立		15 限	高橋 勝
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	オリエンテーション	人間の尊厳と人権・福祉理念を意識して捉えることができる	
2 限	①人間の尊厳と人権・福祉 人間の尊厳と自立について重点的に学ぶ	人権や尊厳に関する日本の諸規定を学び、重要性を意識することができる	
3 限	↓	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 1 を理解し、説明することができる	
4 限		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 2 を理解し、説明することができる	
5 限			
6 限			
7 限			
8 限	人権尊重と権利擁護について重点的に学ぶ	人権尊重と権利擁護を学び、実践に生かすことができる	
9 限	演習 1-1 演習 1-2	演習を通して設問の正誤を確認しながら理解することができる。また尊厳と自立についてグループワークを通して発言し、これまでの学習を通じて学んだことをグループワークで発言し合い、学びの確認ができる。	
10 限	②自立の概念 自立の概念についての考え方を学ぶ	自立支援とは何かを自律の定義の解釈と併せて理解す中で、質の高い介護を実践することができる	
11 限	↓		
12 限			
13 限			
14 限			
15 限	演習 1-3 これまでの振り返り	演習を通して利用者の主体性を大切にした助言についてグループで検討し話し合うことができる。また振り返りを通じて理解できない事項の確認を行い、本試験に向かうことができる	
		試験	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間関係とコミュニケーション I	教員名 鎌田文聡
科目時間数 : 10 限	授業の種類 : <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 : <u>必修・選択</u>	配当学年 : 1年次
開講時期 : <u>前期</u> ・後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 一つには、人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について学ぶ。そのうえで、人間と人間関係とその支援についての基礎的な知識を身につけること、 二つには、対人関係・対人援助関係及び組織におけるコミュニケーションについての基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>	
<p>【授業全体の内容の概要】 ① 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 ② 対人関係におけるコミュニケーション ③ 対人援助関係とコミュニケーション ④ 組織におけるコミュニケーション</p>	
<p>【授業における達成課題】 ① 人間と人間関係 ② 対人関係におけるコミュニケーション ③ 対人援助関係とコミュニケーション ④ 組織におけるコミュニケーション 上記四点についての基礎的・基本的内容について理解することができる。</p>	
	使用教材
学生用	最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 (第2版)
	出版社
中央法規出版	
<p>【使用教室】 1. <u>HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>	
<p>【評価方法】 1. <u>筆記試験 50%</u> 2. <u>レポート10%</u> 3. <u>出席 20%</u> 4. <u>授業態度 10%</u> 5. 実技試験 6. <u>他10%</u> 適宜リアクシペーパーを活用する</p>	
<p>【備考】</p>	
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無</p>	
<p>【内容】 障がい児・者、高齢者の福祉の現場や特別支援教育や援教育や研究に長年 携わる</p>	

科目名		科目時間総数	教員名
人間関係とコミュニケーションI		10 限	鎌田文聰
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
	人間関係の形成と コミュニケーションの基礎		
1 限	人間関係のなかで自分と他者を理解する	人間関係のなかで自分と他者を理解するということのとらえができる	
2 限	人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示	人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示について理解することができる	
3 限	人の発達にともなう、人間関係の広がり	人の発達にともなう、人間関係の広がりについて理解できる	
4 限	コミュニケーションの特性や構造	コミュニケーションの特性や構造について理解することができる	
5 限	言語的コミュニケーション	言語的コミュニケーションについて理解できる	
6 限	非言語的コミュニケーション	非言語的コミュニケーションについて理解できる	
7 限	人間関係の発展や後退とコミュニケーション	人間関係の発展や後退とコミュニケーションについて理解できる	
8 限	円滑なコミュニケーションをはかる配慮	円滑なコミュニケーションをはかるうえでの配慮について理解することができる	
9 限	組織の存在とコミュニケーションの特徴	組織の存在とコミュニケーションについて理解することができる	
10 限	組織における情報の流れを理解する	組織における情報の流れを理解することができる	
11 限			
12 限			
13 限			
14 限			
15 限			
16 限			
17 限			
18 限			
19 限			
20 限			
21 限			
22 限			
23 限			
24 限			
25 限			
26 限			
27 限			

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間関係とコミュニケーション I	教員名 高橋 勝	
科目時間数 : 5 限	授業の種類 : <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <u>必修</u> ・ 選択	配当学年 : 1年次	
開講時期 : 前期 ・ <u>後期</u> ・ 集中		
<p>【授業の目的・ねらい】 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身に着けるための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 第1章の人間の尊厳と自立、第2章の人間関係とコミュニケーションを受けてチームマネジメントの意義について、社会福祉の観点から概観する。介護実践における諸問題をチームマネジメントから解決していく意義を課題提起させながら、障害者問題、高齢者問題を含めて発表させ授業を進める。</p> <p>【授業における達成課題】 介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を理解でき、更に最終的には重要性を説明できることを達成課題とする。</p>		
	使用教材	出版社
学生用	最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解 (第2版)	中央法規出版
<p>【使用教室】 1. <u>HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>		
<p>【評価方法】 1. <u>筆記試験</u> 2. レポート 3. <u>出席</u> 4. <u>授業態度</u> 5. 実技試験 6. その他 ()</p>		
<p>【備考】 筆記試験は50点以上とし、他に授業態度及び出席日数を加味して60点以上を合格とする。また授業態度はルーブリック評価を参考とする。</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無</p>		
<p>【内容】 障がい者施設の指導員、高齢者施設の管理者等</p>		

科目名	人間関係とコミュニケーションI	科目時間総数	5 限	教員名	高橋 勝
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標			
1 限	チームマネジメント	介護実践におけるチームマネジメントの意義を理解するとともに、グループワークを通じて実践に繋げることができる			
2 限	チーム力・チームケア	ケアを展開するためのチームマネジメントを学ぶとともに、グループワークを通じて実践に繋げることができる			
3 限	OJT・Off-JT	材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントの重要性を理解するとともに、グループワークを通じて実践に繋げることができる			
4 限	スーパービジョン	同上			
5 限	組織の構造・機能・役割まとめ	組織の目標達成のためのチームマネジメントを理解するとともに、グループワークを通じて実践に繋げることができる。			
		試験			

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間関係と コミュニケーションⅡ	教員名 我妻信子
科目時間数 : 10 時間	授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 : 必修 ・ 選択	配当学年 : 1年次 開講時期 : 前期 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 対人援助に必要な人間の関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する内容とする。また聴覚障がい者の講師による講義を受け、背景と現状を知る。</p> <p>【授業における達成課題】 手話の基礎を学び、聴覚障がい者との日常会話を習得し実践することができる。</p>	
	使用教材
出版社	
学生用	手話を学ぼう 手話で話そう
	社会福祉法人全国手話研修センター
<p>【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>	
<p>【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>	
<p>【備考】 評価について：出席率80%以上、実技・筆記試験合わせて70点以上から4段階評価する</p>	
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p>	
<p>【内容】 手話通訳・指導の勤務経験</p>	

科目名 人間関係とコミュニケーションⅡ		科目時間総数 10 限	教員名 我妻信子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<u>人間関係の形成とコミュニケーションの基礎</u>	基礎的な手話を獲得し、自己紹介を通して聴覚障がい者との会話ができるようになる。	
2 限		オリエンテーション 授業方針・授業の位置づけと理解 手話の基礎知識 特徴 7つのコミュニケーション方法 挨拶の単語・会話ができるようになる	
3 限		自己紹介ができるようになる 聴覚障がい者の生活を知る DVD (私の大切な家族)	
4 限		手話実技 自己紹介 指文字 家族	
5 限		数字 (誕生日・時間・過去・未来・現在・金額・・・)	
6 限		趣味・出身地・地図・住所・・・)	
7 限		仕事 (介護福祉士・保育士・看護師・医者…)	
8 限		ろうあ者講師の講義 (ろうあ者の歴史・教育・・・)	
9,10 限		復習・実技試験	

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 人間関係とコミュニケーションⅡ (点字)	教員名 古舘 直美		
科目時間数 : 5 限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習		
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 2年次	開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 視覚障害者の情報収集やコミュニケーション手段のひとつである「点字」の組立て等を理解し、その読解力等を身につけるための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 視覚障害者のコミュニケーション手段のひとつである点字の歴史・組み立て・特徴・表記を、点字印刷物に触れる・点字を読む・点字器を使用して点字を書く体験を通して学ぶ。</p> <p>【授業における達成課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害者のコミュニケーション手段のひとつである点字について説明できる。 ・ 点字の組み立て、書き方の基本ルールを学び、点字器で点字を書くことができる。 ・ 身の回りにある点字を読むことができる。 			
	使用教材	出版社	
学生用	初めての点訳 (第3版) 点字一覧表	全国視覚障害者情報提供施設協会 日本点字図書館	
教員参考用	初めての点訳 (第3版) 指導者用マニュアル 点訳のてびき 第4版	全国視覚障害者情報提供施設協会 同上	
<p>【使用教室】</p> <p>1. <input checked="" type="checkbox"/> HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室</p> <p>5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート <input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度</p> <p>5. 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 6. その他 (点字の提出物・確認テスト)</p>			
【備考】			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>			
【内容】 点訳奉仕活動・点字指導員として点訳奉仕員養成実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
人間関係とコミュニケーションⅡ（点字）		5 限	古舘 直美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 限	人間関係の形成 コミュニケーションの基礎（点字） <u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 点字の組み立て 点字を書く器具	道具を用いた言語的コミュニケーションについて学ぶ ・自分の周りにおける点字の存在を確認する ・点字の五十音・濁音・拗音・数字について学ぶ ・簡単な点字を読むことができる ・点字を書く器具について学ぶ 達成目標：点字の組立てを理解し、点字を読む（初級）	
	2 限	点字の歴史 点字の表記	・点字の歴史について学ぶ ・点字のかなづかい・数字・アルファベットについて学ぶ ・点字の印刷物を読んで、問いに答えることができる ・点字器を使用して、自分の名前を書くことができる 達成目標：点字のかなづかいを理解し、点字を読む（中級）
3 限	点字の分かち書き 点字を点字器で書く	・点字の分かち書き（複合語・固有名詞）について学ぶ ・点字器を使用して、簡単な点字を書くことができる 達成目標：点字の分かち書きを理解し、点字器で点字を書く	
4 限	点字の記号類 点字を書く（短文）	・点字の記号類と書き方の実際について学ぶ ・点字印刷資料に触れ、印刷方法の違いを学ぶ ・点字器を使用して、点字の短文を書くことができる 達成目標：点字のルールを理解し、短文を書く（初級）	
5 限	点字関係資料 点字を書く（長文） 確認テスト	・点字習得用の各種関係資料について学ぶ ・器具を使用して、点字の長文を書くことができる ・点字の読みと点字に関する小レポートを作成することができる 達成目標：点字のルールを理解し、長文を書く（中級）	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 社会の理解	教員名 畠山 修		
科目時間数 : 30 限	授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習		
必修・選択の別 : 必修 ・ 選択	配当学年 : 1年次	開講時期 : 前期 ・ 後期 ・ 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、及び社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身に付ける事を目的とする。特に社会保障制度、介護保険制度、障害者保健福祉制度については介護福祉士として獲得しておかなければならない知識であり、身体面だけではなく社会福祉制度を用いた支援について理解する事を狙いとする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護福祉士もソーシャルワークの技術が求められる時代である。利用者の状況に応じて様々な福祉制度を組み合わせ、利用者のウェル・ビーイングを実現できるように、教科書だけではなく社会事象に焦点を充て、包括的な支援を考えていく。</p> <p>【授業における達成課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会と環境との接点を社会福祉援助の立場から考える事が出来る ・ 福祉ニーズを持つ人々に対し、制度を用いた効果的な支援を考える事が出来る ・ 社会情勢の変化をキャッチし、時代背景ごとの福祉ニーズを考える事が出来る 			
	使用教材	出版社	
学生用	最新 介護福祉士養成講座 社会の理解	中央法規	
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
<p>【備考】</p> <p>評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p>			
<p>【内容】 障害者職業カウンセラーとして精神障害者・発達障害者の就労支援</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
社会の理解		30 限	畠山 修
時間数	主な学習内容と到達目標		
1 限	オリエンテーション	科目の特徴と福祉専門職の位置づけを理解する	
2 限	①社会と生活の仕組み	生活の基本機能を理解し、社会生活への接近方法を理解する	
3 限	〃	家庭の機能とライフスタイルの変化を把握し、時代ごとに自助・互助・共助の意味が異なることを理解する	
4 限	〃	少子高齢化と健康寿命の関連性を分析し、「老いること」と「子供が少なくなること」が社会に及ぼす影響を理解する	
5 限	〃	社会と組織の機能を理解し、人間は絶えず集団の中で支えあっていることを理解する	
6 限	②地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域社会やコミュニティの概念を理解し、地域社会の変化をとらえることができる	
7 限	〃	地域共生社会や地域包括支援体制の方法を理解し、その実現のための制度と課題を理解できる	
8 限	③社会保障制度	社会保障の意義と役割を理解し、ライフサイクルごとの社会保障制度を理解する	
9 限	〃	我が国における社会保障制度の歴史と憲法の関連性を理解する	
10 限	〃	国民皆保険制度及び戦後福祉六法体制が生活に与える役割を理解する	
11 限	〃	社会保障を支える年金保険の仕組みを理解する	
12 限	〃	社会保障制度を支える医療保険・介護保険の仕組みを理解する	
13 限	〃	国民の義務である勤労の義務を支える雇用保険や労災保険の仕組みを理解する	
14 限	〃	社会保障制度を支える財政基盤を理解し、少子高齢化と持続可能な社会保障のあり方を理解する	
15 限	④障害者福祉と障害者保健福祉制度	障害者福祉の現状と動向を理解し、時代ごとのニーズを理解する	
16 限	〃	障害者の法的定義を理解し、谷間の障害者の存在を支援する大切さを理解できる	
17 限	〃	障害者保険福祉制度の成り立ちを整理し、障害者・児に対する支援制度を理解する	
18 限	〃	障害者総合支援法の目的と市町村、都道府県、国の役割を理解する	
19 限	〃	自働支援給付と地域生活支援事業の仕組みを理解する	
20 限	〃	障害認定区分に応じたサービスの種類と内容を理解する	
21 限	〃	総合支援法にかかる専門相談職や機関の位置づけを理解する	
22 限	〃	障害児・者の支援に介護福祉士がどのように携わっていくかイメージを強化する	
23 限	⑤介護実践に関連する諸制度	虐待防止・サービス利用者保護に関する権利保障制度を理解する	
24 限	〃	個人情報保護法が介護の現場に与える影響を理解できる	
25 限	⑥高齢者福祉と介護保険制度	高齢者福祉制度と介護保険法の内容を理解し、高齢者福祉の課題と現状を理解することができる	
26 限	〃	介護保険施設の概要を知り、ニーズに応じた入所施設の形態を理解する	
27 限	〃	介護保険制度と障害者総合支援法の関連性と互換性を理解する	
28 限	〃	情報公開制度がサービス利用者にとどのような影響を与え、サービス利用契約に反映されているかを理解する	
29 限	〃	厚生労働省が社会福祉や保健福祉の制度にとどのようなかかわっているか理解する	
30 限	まとめ	試験	

科目名		科目時間総数	教員名
情報科学		15限	松森 良子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1	限	オリエンテーション Windowsの基本操作	授業概要 Windows基本操作、マウス操作ができる
2 \n6	限	Wordの基本操作	文字の入力を学ぶ 日本語入力システムの操作、入力・変換、文章入力ができる
			ビジネス文書作成と印刷を学ぶ 文書作成、範囲選択・文書の編集機能、印刷に関する機能を操作できる
			文書の編集を学ぶ 文書編集に関する応用的な機能・文書の表現力をアップする機能を操作できる
			表の作成を学ぶ 表と罫線に関する機能が操作できる 画像が入った文書の作成を学ぶ WORD終了後 表、図などが入った文書を作成できる
7 \n12	限	Excelの基本操作	EXCELの基礎知識を学ぶ EXCELデータ入力ができる データの入力と編集できる
			表の作成の操作を学ぶ 数式、セル参照を操作できる。関数の入力ができる 表の書式設定、印刷の操作ができる
			データベースの操作 データベース並べ替え、抽出操作ができる
			グラフの作成を学ぶ グラフの概要、作成、編集操作ができる EXCEL終了後 簡単な計算付き表が作成できる（会計報告等）
1 3 \n15	限	PowerPointの基本操作	プレゼンテーションの作成を学ぶ 新規作成、テーマ設定入力、編集操作ができる 表・図形、画像、グラフの挿入操作ができる プレゼンテーションの実行操作ができる 画面切り替え効果、アニメーション効果の操作ができる 配布資料、発表用原稿の印刷操作ができる 各自作成したPowerPointのスライドで発表できる PowerPoint終了後 実習報告会用スライド作成ならびプレゼンができる

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	教員名		
ビジネス実務	吉田 あかり		
科目時間数 : 10 限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習		
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 1年次 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中		
<p>【授業の目的・ねらい】 社会人として職場に必要なビジネスマナーの基礎知識・技術の習得を目指す。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ビジネスマナーを習得するために必要な知識については主に講義形式で行うが、ロールプレイングやケーススタディを中心に、学生自身が主体的な参加が必須となる実践的な演習を行い、社会人としての言葉遣い、電話・来客対応の基本を学ぶ。</p> <p>【授業における達成課題】 社会人に必要な基礎的ビジネスマナーを身につけ、学習した知識・技術を実践することができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	社会でいきる実践ビジネスマナー プリント	ウイネット	
教員参考用			
【使用教室】			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 筆記試験	2. レポート	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
1. 筆記試験は60点以上を合格とする			
4. 授業態度はルーブリック評価を参考とする			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内 容】 職業訓練校等でビジネスマナー講師としての実務経験あり			

科目名		科目時間総数	教員名
ビジネス実務		10 限	吉田 あかり
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する	
2 限	第一印象と基本動作	第一印象の大切さを理解し、身だしなみ、表情、挨拶とお辞儀の基本を習得する	
3 限	言葉遣いの基本	仕事上の話し方・聞き方の基本と感じの良い言葉遣いを習得する	
4 限	〃	敬語の基本を習得する	
5 限	〃	敬語とビジネス用語の基本を習得する	
6 限	来客対応の基本	接遇とは何かを理解し、お客様の受け付け方や名刺の取り扱い方を実践できる	
7 限	〃	ご案内の仕方、お茶の出し方を実践できる	
8 限	電話対応の基本	電話の特性を理解し、電話の受け方の基本を習得し、実践できる	
9 限	〃	伝言メモの作成と電話のかけ方の基本を習得し、実践できる	
10 限	理解度確認	理解度確認テスト・解説	

科目名 ビジネス実務		科目時間総数 5 限	教員名 吉田 あかり
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	オリエンテーション 信頼を得る基本動作	授業の位置づけについて理解する 好ましい表情・挨拶とお辞儀を実践する	
2 限	言葉遣いの実践 電話応対の実践	適切な言葉遣い・敬語を実践する 電話の受け方・かけ方を実践する	
3 限	社会人としての心構え	仕事に取り組む心構えを理解する 指示の受け方・報告の仕方を実践する 職場の人間関係の基本を理解する	
4 限	訪問のマナー	訪問前の準備・訪問当日の基本を理解する	
5 限	理解度確認	理解度確認テスト・解説	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	就職・職場研究	教員名	吉田 あかり
科目時間数 :	7.5	限	授業の種類 :
必修・選択の別 :	(必修) 選択	配当学年 :	2年次
		開講時期 :	(前期) 後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 働く意義を理解し、社会人となるに相応しい意識及び態度を身につける 就職活動に、主体的・積極的に取り組むことができるようになる</p> <p>【授業全体の内容の概要】 自らの働く意義を見つめ、自己分析を深める 面接成功のための意識を高め、面接対策を進める</p> <p>【授業における達成課題】 社会人となる意識を高め、面接対策として、身だしなみ・問答・立ち居振る舞い等に関する重要点を実践することができる</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	プリント		
教員参考用			
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
2. 提出物をすべて期限内に提出すること			
4. 授業態度はルーブリック評価を参考とする			
【担当教員の実務経験の有無】			
(有) ・ 無			
【内 容】 職業訓練校等でビジネスマナー講師としての実務経験あり			

科目名 就職・職場研究		科目時間総数 7.5 限	教員名 吉田 あかり
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	ライフワークプラン	ライフワークプランの考え方を理解する 自らの働く意義・福祉の仕事で働く意義を理解する	
2 限	自己分析	自己分析の方法、自己PRの方法を理解する	
3 限	就職試験対策	公的な場での自己紹介を実践する	
4 限	〃	面接成功のポイントを理解する	
5 限	〃	面接時の問答を実践する	
6 限	〃	面接時の立ち居振る舞いを実践する	
7 限	〃	面接を総合的に実践する	
7.5 限	〃	総括	

授業計画表

介護福祉学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	教員名		
就職・職場研究	阿部 真由美・湊 和美・中川 貴久江		
科目時間数:	7.5 限	授業の種類: <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別: <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年: 1, 2年次	開講時期: <input checked="" type="checkbox"/> 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】			
<p>社会人として仕事をしていく上で必要とされる、職場の組織体のあり方、人間関係のあり方、リーダーとなった場合の人材育成のあり方について学ぶ。</p>			
【授業全体の内容の概要】			
<p>組織のしくみ・あり方、求められる資質などを学ぶ。 卒業生や介護現場の方に来校していただき、社会人として必要な心構えを学ぶ。</p>			
【授業における達成課題】			
<p>前年度の就職状況を受け、今後の就職活動の参考にし進めていく。 自分の長所・短所、強み等を明確にし、履歴書や面接練習に活かすことができるようになる。</p>			
	使用テキスト・参考文献	出版社	
学生用	適宜プリント等対応		
その他			
【使用教室】			
<p>1. <input checked="" type="checkbox"/> HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
【評価方法】			
<p>1. 筆記試験 2. レポート <input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
【備考】			
<p>評価について：出席率80%以上、授業態度（ルーブリック評価参考）にて4段階評価する</p>			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
【内 容】 一般企業や福祉施設での勤務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
就職・職場研究		7.5 限	阿部 真由美・湊 和美 中川 貴久江
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1	限	『働く』とは	就活に向けて『働くこと』とは 社会人としてのマナー・『今』すべきこととは
2	限		第1回 就職セミナー（2年生の内定者からの報告） 第1回 就職セミナーを受けて（振り返り）・求職票及び第2回セミナーの説明
2.5	限		春休みの過ごし方・ボランティア活動へ向けて
3.5	限	就職研究	第2回 就職セミナー （昨年度実績とそこから見える傾向、就活の進め方、心構え）
4.5	限		履歴書用写真撮影／求人票の見方／ボランティアの進め方 模擬面接練習事前指導
5.5	限	模擬面接授業	} 面接時の立ち振る舞いを覚える。 また自己の強みや苦手とする部分を知る。
6.5	限		履歴書作成
7.5	限		社会人としての心構え・マナー 介護福祉士としての在り方について

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護の基本 I	教員名	大崎 幸司
科目時間数 :	30.5 限	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修 ・ 選択	配当学年 :	1年次
		開講時期 :	前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 介護の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力、態度を身につける。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護ニーズおよび介護福祉を取り巻く状況を社会的課題を踏まえたうえで、「尊厳を支える介護」・「自立に向けた介護」等について理解を深める。</p> <p>【授業における達成課題】 介護福祉士として様々な場面における役割りと機能を理解する。 自立支援について様々な角度から考え、理解することができる。 介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉に求められる専門職としての態度を形成することができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	最新 介護福祉士養成講座 介護の基本 I	中央法規	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
・筆記試験は60点以上を合格とする。 ・授業態度についてはルーブリック評価を参考にする。			
【担当教員の実務経験の有無】			
有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
介護の基本 I		30.5 限	大崎 幸司
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<u>オリエンテーション</u>	自己紹介。授業の位置づけについて理解する。	
2 限	<u>介護福祉の基本となる理念</u>	時代の流れとともに変化する介護ニーズや社会福祉を知り、理解する。	
3 限		尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。	
4 限		理解する。	
5 限		理解する。	
6 限		<u>介護福祉士の役割りと機能</u>	地域や施設、在宅の場における介護福祉士の役割りと機能を理解する。
7 限	理解する。		
8 限	介護予防や医療的ケアなど新たな介護福祉士の役割りと機能を理解する。		
9 限	理解する。		
10 限	<u>介護福祉士の倫理</u>	看取り、災害時などの場における介護福祉士の役割りと機能について理解する。	
11 限		介護に携わる人が持つべき職業倫理を学ぶ。	
12 限		普遍的な倫理判断の視点を学び、それを様々な介護場面で	
13 限		どうにかせるかを考えることができる。	
14 限	<u>自立に向けた介護</u>	前期末試験	
15 限		ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメント観点	
16 限		から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や	
17 限		介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。	
18 限	<u>介護を必要とする人の理解</u>	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、地域や社会との	
19 限		かかわりを理解する。	
20 限		理解する。	
21 限	<u>介護を必要とする人の生活を支えるしくみ</u>	介護を必要とする人の生活の観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する。	
22 限		理解する。	
23 限	<u>協働する多職種</u> の役割りと機能	多職種による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割りと機能を理解する。	
24 限			

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
25 限	<u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u>	介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解する
26 限		安全の確保のための基礎知識や事故への対応を理解する。
27 限	<u>介護従事者の安全</u>	介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための
28 限		健康管理や労働環境の管理について理解する。
29 限		
30		試験対策・試験
30.5		
限		

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護の基本 I (音楽療法)	教員名	阿部 さつき
科目時間数:	7 限	授業の種類:	(講義) ・ (演習) ・ 実習
必修・選択の別:	(必修)・選択	配当学年:	1年次
		開講時期:	前期・(後期)・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 介護・支援を必要とする人の理解やニーズ、対人援助に大切な言語的・非言語的コミュニケーション、音楽を介した援助的な関わりについて理解するとともに、ワークやロールプレイを通して実践する力を身に付けるための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護・支援を必要とする人の理解や援助的コミュニケーションについて講義で学び、ワークを通してコミュニケーション技法の習得を目指す。 対人援助職としての音楽療法について理解し、音楽を援助的なコミュニケーションツールとして実践に活かせることを目指す。</p> <p>【授業における達成課題】 ・介護・支援における言語的・非言語的コミュニケーションや音楽での援助的コミュニケーションの意義・目的について理解し、説明ができる。 ・言語や音楽でのコミュニケーション技法を理解し、実践することができる。 ・グループでのワークを通して他者と連携して物事を行い、自主性・創造性・協調性を身に付けることができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	音楽療法入門上(理論編)下(実践編) 日野原重明監修	春秋社	
教員参考用	音楽療法の手引き、音楽療法の実際 松井紀和著 音楽療法を定義する ケネス・E・ブルシア著	牧野出版 東海大学出版社	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他(課題 (ワーク))		
【備考】			
1. ルーブリック評価の基づき、出席率(30%)、授業態度(30%)、課題(ワーク)(40%)により評価点を算出する(担任と要相談)			
【担当教員の実務経験の有無】 (有) ・ 無			
【内 容】 発達障がい児者・高齢者施設に於いて、音楽療法士としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
介護の基本Ⅰ（音楽療法）		7 限	阿部 さつき
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<p><オリエンテーション></p> <p><音楽療法とは？></p>	<p>授業の位置づけや内容の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の位置づけや内容について理解する <p>音楽療法的活動を体験してみよう①&フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションや支援のツールとしての音楽の使い方や効果について、体験を通して学ぶ <p>音楽療法概論、映像視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概論、映像視聴により、音楽療法についての基本的な知識を得る 	
2 限	<p><対人援助職における関わり方の基本と音楽療法></p>	<p>対象者理解の為の言語的・非言語的関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーチングや傾聴について学び、理解する <p>対象者理解/自己理解の為のワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して話し手聞き手になり、他者理解の仕方を学ぶ <p>音楽療法的活動を体験してみよう②&フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションや支援のツールとしての音楽の使い方や効果について、体験を通して学ぶ 	
3 限	<p><高齢者に対する音楽療法の実際①></p>	<p>疾患とその症状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的変化や疾患とその症状について学ぶ <p>症状やニーズにあわせた音楽療法の目的と活動紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状やニーズにあわせた音楽療法(脳、身体、心理、社会性へのアプローチ)を学ぶ <p>覚えておきたい童謡唱歌・歌謡曲・民謡&音楽療法的活動ワーク①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設で活用できる歌を覚え、療法的な音楽活動に活かす方法を学ぶ 	
4 限	<p><高齢者に対する音楽療法の実際②></p>	<p>前回の授業の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的変化や疾患とその症状、症状やニーズにあわせた音楽療法の目的と活動の意義について理解を深める <p>覚えておきたい童謡唱歌・歌謡曲・民謡&音楽療法的活動ワーク②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設で活用できる歌を覚え、療法的な音楽活動に活かす方法を学ぶ ・症状やニーズに合わせた音楽療法的活動を体験し、ロールプレイによって実践してみる 	
5 限	<p><発達障がい児者に対する音楽療法の実際></p> <p><音楽療法的活動作り計画></p>	<p>発達障がいの症状と理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいの症状について学ぶ <p>症状にあわせた音楽療法の目的と活動紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい児者の症状やニーズに合わせた音楽療法(音楽や音の使い方、関わり方)を学ぶ <p>ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状やニーズにあわせた音楽療法的活動を体験し、ロールプレイによって実践してみる <p>音楽療法的活動作りの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ編成をする ・手作り楽器について説明し、次回まで各自準備する 	
6 限	<p><対人援助職としての音楽療法のまとめ> 質疑応答</p> <p><音楽療法的活動作り①></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法の基礎についてのまとめをし、総括的に理解する <p>高齢者、発達障がい児者に対する音楽療法的活動の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協同しながら活動を創造していく 	
7 限	<p><音楽療法的活動作り②></p> <p><発表とフィードバック></p> <p><総括></p>	<p>高齢者、発達障がい児者に対する音楽療法的活動の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協同しながら、発表に向けて活動を創造していく <p>活動の発表とフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎の発表や意見交換を行い、対人援助職として大切な姿勢や態度で臨むことができる <p>音楽ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の共有&フィードバック、まとめ 	

*毎回の授業終了後、リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックする

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護の基本 I (造形)	教員名 湊 和美	
科目時間数 : 4.5 限	授業の種類 : 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 2年次 開講時期 : 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護を必要とする人のADLやQOLを意識した物作りやレクリエーションを企画・準備、実施まで行う。</p> <p>【授業における達成課題】 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解し、その方にあった支援を考えることができる。</p>		
	使用教材	出版社
教員用	月刊誌・季刊誌を参考資料とする	
<p>【使用教室】</p> <p>1. <input checked="" type="checkbox"/> HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室</p> <p>5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート <input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度</p> <p>5. 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 6. その他 (制作物の提出)</p>		
<p>【備考】</p> <p style="text-align: center;">授業態度についてはルーブリック評価を参考にする</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>		
<p>【内 容】 介護福祉士としての勤務経験</p>		

科目名	介護の基本 I (造形)	科目時間総数	4.5 限	教員名	湊 和美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標			
	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	介護を必要とする人の個別性に対応した支援（レクリエーションに関するもの）を考え提供できるようになる			
1 限		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（授業概要の説明） ・個人制作 ①教員からの提案内容を実際に作成 ・個人制作 ②介護を必要とする人の個別性（ADL・QOL）に対応したレクリエーションの企画 			
2 限		<ul style="list-style-type: none"> ・個人製作 ③②の実施・完成 			
3 限		<ul style="list-style-type: none"> ・集団制作 ①壁面飾りの企画・準備（・作成） 			
4 ～4.5 限		<ul style="list-style-type: none"> ・集団制作 ②壁面飾りの作成・完成 			

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護の基本 I (華道)	教員名 猿子 滋苑		
科目時間数 : 3 限	授業の種類 : 講義・演習・実習		
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 2年次	開講時期 : 前期・後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 専門分野における知識と技術を身に着けるため、基礎的学力を習得する</p> <p>【授業全体の内容の概要】 周囲に目を配り、TP0をわきまえ、精神的に他者とかかわりながらコミュニケーションを取れる人を育てる</p> <p>【授業における達成課題】 生命に対する尊厳を養い真の優しさを身に着け実践することができる</p>			
	使用教材	出版社	
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技 6. その他 ()</p>			
<p>【備考】 1985年～2019年 (33年間) 盛岡駅ビルフェザン教室開設 1988年～現在に至る テレビ岩手academy草月流教室 2008年～2020年 岩手華道協会会長 (現在顧問)</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有・無</p> <p>1989年～2021年 盛岡カレッジオブビジネス非常勤講師 (総合ビジネス科)</p>			
<p>【内容】 1999年～現在に至る 盛岡医療福祉スポーツ専門学校非常勤講師 (介護福祉・こども福祉学科) その他ステージ花・イベントの花制作にも関わる</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
介護の基本 I (華道)		3 限	猿子 滋苑
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	授業への準備 (一輪ざし)	座席指定・道具の出し入れ・道具の名称 (水盤・剣山) はさみの使い方・植物の表裏 水切法・燃焼法 自己紹介 (オアシス使用) 敬老の日 基本的な花の扱いがわかり、花の特性を理解して自由に花を飾ることが出来る	
2 限	植物の水揚げ法		
3 限	プレゼントの花		
4 限			
5 限			
6 限			
7 限			
8 限			
9 限			
10 限			
11 限			
12 限			
13 限			
14 限			
15 限			
16 限			
17 限			
18 限			
19 限			
20 限			
21 限			
22 限			
23 限			
24 限			
25 限			
26 限			
27 限			
28 限			

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護の基本Ⅱ	教員名	阿部真由美
科目時間数 :	40 限	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	1, 2年次
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 「尊厳の維持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から踏まえるための学習。また、多職種連携・協働、介護における安全や、チームケア等について理解するための学習とする。</p>			
<p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉を必要とする人の理解、生活を支えるしくみについて、生活のしずらさ（生活の理解・地域連携） ・介護実践における連携（他職種連携・地域連携）・レクリエーション、個別援助で使用する小物づくり（かるた等） ・介護福祉士の働く場（サービス・提供の場の特性） ・安全の確保とリスクマネジメント（事故防止・感染管理） ・介護に携わる人の健康管理（意義と目的・知識と技術・環境づくり） 			
<p>【授業における達成課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、介護福祉を必要とする人の生活と生きずらさについて理解し、支援の方法を考えることができるようになる。 2、介護福祉士誕生の背景を理解し定義と義務が理解できるようになる。 3、超高齢社会を担う専門職として求められる社会的役割が理解できる。 4、介護実践におけるチーム、多職種の役割と連携方法が理解できる。 5、介護事故とヒヤリハットの理解、感染対策、介護者自身の健康管理の重要性を認識する。 			
	使用教材	出版社	
学生・教員	最新 介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ	中央法規	
<p>【使用教室】</p> <p>1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室</p> <p>5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度</p> <p>5. 実技試験 6. その他（ ）</p>			
<p>【備考】</p> <p>評価について：試験・授業態度の結果、A(80点以上)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p>			
<p>【内容】 介護福祉士としての実務経験</p>			

科目名	介護の基本Ⅱ	科目時間総数	40限	教員名	阿部 真由美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標			
1限	1年次	オリエンテーション			
	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	生活とは何か			
2限		生活の特性			
		生活の理解			
3限		介護福祉を必要とする人の暮らしの理解			
		・高齢者の暮らし			
4限		介護福祉を必要とする人の暮らしの理解			
		・障害者の暮らし			
5限		「その人らしさ」と「生活のニーズ」の理解			
6限		生活のしづらさの理解			
7限		生活のしづらさに対する支援			
8限	生活を支えるフォーマルサービス				
	・高齢者				
9限	生活を支えるフォーマルサービス				
	・障害者				
10限	生活を支えるインフォーマルサービス				
	費用負担				
11限	インフォーマルサービスの種類 提供者				
	支援の視点				
12限	地域連携の意義と目的				
13限	地域連携の実際				
14限	介護における安全の確保とリスクマネジメント	リスクマネジメント 介護における安全の確保			
		介護福祉士の責務と安全の確保			
15限		リスクマネジメントとは何か			
	福祉サービスに求められる安全・安心				

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
16限		事故防止対策
		ヒヤリハット
17限		身体拘束
18限		感染症対策
19限		演習 新聞づくり
20限		演習 カルタづくり
21限		演習 カルタづくり
22限	まとめ	
0.5限		修了テスト
23限	2年次	多職種連携・協働とは
	協働する他職種の役割と機能	多職種連携・協働を要請する社会の動き
24限	協働する他職種の役割と機能	多職種連携・協働の必要性
		多職種連携・協働の効果
多職種連携・協働のためのチームづくり		
多様な視点 課題解決に対するかかわり方		
26限		多職種協働を成功させるための介護技術と知識
		ホスピタリティ的視点とコミュニケーション能力
27限		保健・医療・福祉職の役割と機能
		社会福祉士・介護専門員・医師・看護師・保健師・理学療法士
28限		作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士・公認心理士
		薬剤師・サービス提供管理者
29限	多職種連携・協働の実際	

科目名	介護の基本Ⅱ	科目時間総数	40限	教員名	阿部 真由美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標			
30限		多職種連携・協働の実際			
		多職種連携の実際			
31限	介護従事者の安全	健康管理の意義と目的			
		従事者の健康や生活を守る法制度			
32限		健康に働くための健康管理			
33限		こころの健康問題 ストレスとこころの健康			
		こころの病気			
34限		職場で取り組むこころの健康管理			
		ストレスの影響と対処法			
35限		演習 すごろく作り			
36限		演習 すごろく作り			
37限	介護従事者の安全	介護従事者の健康管理			
		腰痛予防			
38限		労働環境の整備			
		介護従事者の労働災害			
39限		予防			
		まとめ			
0.5限		修了テスト			

授業計画表

介護福祉 学科 盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護の基本Ⅱ	教員名	長谷川 江利子
科目時間数 :	5	限 授業の種類 :	講義・演習・実習
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	2年次
		開講時期 :	前期・後期・集中
〔授業の目的・ねらい〕			
<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p>			
〔授業全体の内容の概要〕			
<p>介護における安全の確保とリスクマネジメント（事故防止・感染管理のための方策）の知識を学び人の命を守るための技術を身につける</p>			
〔授業における達成課題〕			
<p>・介護現場は勿論であるが、いつ、どこで遭遇するかわからない事故やケガに対応でき、命を守るための力を身につけることができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	応急手当講習テキスト	一般財団法人 救急振興財団	
教員用参考	最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア	中央法規出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
3時間の普通救命講習を実施し、必要な技術が身につけていれば、普通救命講習の修了証を発行する			
【担当教員の実務経験の有無】			
有 無			
【内 容】 看護師としての勤務経験 ・ 応急手当普及員の資格			

科目名		科目時間総数	教員名
介護の基本Ⅱ		5 限	長谷川 江利子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	オリエンテーション <u>介護における安全の確保と</u> <u>リスクマネジメント</u>	授業の位置づけの理解 利用者の心身の安全を守り、安心、安楽な生活を支援する。 到達目標：万一の事故に備えて応急手当のポイントを復習する。	
2 限	応急処置の実際 緊急時対応の実際	三角巾の基本的な使い方（たたみ方・本結び・四つ折り・ 八つ折りの使い方）・骨折の手当ができる 止血の仕方 到達目標：三角巾を使った応急手当ができるようになる	
3 限	緊急時対応の実際	視聴覚室にてDVDを見る その場に居合わせた人が <u>救命処置</u> を行う意義について 到達目標：一次救命処置の手順と方法を理解する	
4 限 5 限	緊急時対応の実際	心肺蘇生法の実際 普通救命講習（修了証の取得） ・一次救命処置 ・観察・対象者への対応・連絡等 ・AEDについて 到達目標：心肺蘇生法とAEDを使った救命処置ができるようになる。 普通救命講習の修了証を取得できる	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	コミュニケーション技術	教員名	上野 準
科目時間数 :	1年次 : 22.5 2年次 : 7.5 限	授業の種類 :	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ <input type="checkbox"/> 実習
必修・選択の別 :	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ <input type="checkbox"/> 選択	配当学年 :	1・2年次
		開講時期 :	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ <input type="checkbox"/> 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 コミュニケーションの基本を理解し、教科書の中だけではなく、実践的な対人対応を演習等を行いながら習得を目指す。</p> <p>【授業における達成課題】 ・介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解し、基本を身につけ実践できる。 ・様々なコミュニケーション技法を学び、対応力や応用力を実践できる。 ・チームにおけるコミュニケーションの意義と重要性を理解し、社会人としての基本、必要な記録や報告についてを学び、実践することができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	最新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術	中央法規出版	
【使用教室】			
①. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】			
①. 筆記試験 2. レポート ③. 出席 ④. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無			
【内 容】 介護士として13年（内、介護福祉士として10年、介護支援専門員として7年）			

科目名 コミュニケーション技術		科目時間総数 1年次：22.5 2年次：7.5 限	教員名 上野 準
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<u>介護を必要とする人とのコミュニケーション</u>	授業の位置づけについて理解する	
2 限	〃	コミュニケーションの意義と目的を学び、理解する。	
3 限	〃	バイステックの7原則を学ぶ	
4 限	〃	傾聴、受容、共感を理解し、説明ができる。	
5 限	〃	言語・非言語・準言語コミュニケーションを学び違いを理解する。	
6 限	〃	テスト	
7 限	〃	目的別のコミュニケーションを学び理解する。	
8 限	〃	目的別のコミュニケーションを学び理解する。	
9 限	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	チームにおけるコミュニケーションを学ぶ。	
10 限	〃	報・連・相の重要性を理解し実践できる	
11 限	<u>介護を必要とする人とのコミュニケーション</u>	集団でのコミュニケーションの意義を理解する。	
12 限	〃	集団運営をロールプレイングにて実践する。	
13 限	〃	テスト	
14 限	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>	記録の目的と効果を学ぶ。	
15 限	〃	記録の方法と書き方を学び実践できる。	
16 限	〃	記録の方法と書き方を学び実践できる。	
17 限	〃	介護福祉職が行う会議の意義や目的、種類、役割を理解する。	
18 限	〃	プレゼンテーションを学びロールプレイングにて実践できる。	
19 限	〃	事例検討における基本姿勢と協働について学ぶ。	
20 限	〃	情報の活用と管理を学び理解する。	
21 限	〃	情報の活用と管理を学び理解する。	
22 限	〃	テスト	
22.5 限	〃	テストの復習を行う。	
23.5 限	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u>	コミュニケーションの情報処理のレベルとそこに生じる障害を理解する	
24.5 限	〃	様々な障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する	
25.5 限	〃	様々な障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する	
26.5 限	〃	様々な障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する	
27.5 限	〃	様々な障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する	
28.5 限	<u>介護における家族とのコミュニケーション</u>	介護職と家族は支援を協働していくパートナーということを理解する	
29.5 限	〃	家族を支援する視点を学び、利用者のQOLを実現するための助言者であることを理解する	
30 限	〃	テスト	

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	生活支援技術 I (居住環境の整備)	教員名	植田 優
科目時間数 :	10 限	授業の種類 :	講義・演習・実習
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	1年次
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 介護の基本である、尊厳の保持の観点から①意思決定は本人が行う。 ②生活の継続性を大切にする。③残った能力を最大限活用する。 の三つのポイントを抑えつつ、安全に援助できる技術や知識について習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 自立に向けた居住環境の整備 ①快適な室内環境・安全に暮らすための生活環境 ②高齢者障害者の住まい ③居住環境整備における、多職種との連携 ④福祉用具の種類及び重要性、選ぶための視点</p> <p>【授業における達成課題】 中古住宅の改修プランの演習を通し、室内外での障害について認識する。 福祉機器を体験する事により、障害を持つ事の大変さを認識し、 安全に援助できる知識を習得する。</p>			
	使用教材	出版社	
	最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I (第2版)	中央法規	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
第2章居住環境の整備から4問、第4章福祉用具の意義から3問レポート課題を出し、概ね60点以上を合格とする。又、授業態度は、ルーブリック評価に準ずる。			
【担当教員の実務経験の有無】			
有・無			
【内容】			
一級建築士			

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術 I (居住環境の整備)		10 限	植田 優
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	オリエンテーション <u>生活支援の理解</u>	授業全体の流れの解説 住まいの役割と機能、家族と生活空間、人と空間、加齢と生活空間 以上を学習し、理想の居住環境整備をアドバイス及び実践 できるようになる。	
2 限	住まいの役割と機能 生活空間 <u>自立に向けた居住環境 の整備</u>	生活環境と室内環境、室内気候・明るさ・音環境の調整、 住まいの維持・監理を実感し、快適な室内環境で安心して暮らす ことを、アドバイス及び実践できるようにする。	
3 限	快適な室内環境 安全に暮らすための 生活環境	日常安全のために、ユニバーサルデザインの考え方を中心に住宅内を 整備し、介護保険制度を利用し、住宅改修も実践できるようにする。	
4 限	居住環境整備における 多職種との連携	居住環境整備における多職種との連携の必要性と、 多職種の役割と介護福祉職との連携の大切さを実感し、 多職種連携の実際を実践できるようにする。	
5 限	レポート作成 福祉用具の意義	「住環境の整備」の、授業のまとめを、レポートにして提出。 生活支援における福祉用具の重要性及び可能性を実感し、 今後の介護実践に役立てる。	
6 限	福祉用具の種類 適切な福祉用具を選ぶ ための視点	福祉用具の分類、公的制度における福祉用具サービスを理解する。 解決手段は福祉用具だけではなく、アセスメントの視点、 福祉用具の適合・モニタリングの視点も大切であることを 実感し、実践につなげる。	
7 限	福祉機器展示場見学	福祉機器を体験する事により、障害を持つ事の大変さを認識し、 安全に援助できる知識を実感し、実践できるようにする。	
8 限	レポート作成	「福祉用具の意義」の、授業のまとめを、レポートにして提出。	
9 限	住宅改修事例 解説	バリアフリー&住宅改修事例 解説 (パワーポイント資料)	
10 限			

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術 I (調理)	教員名 古澤 美智子	
科目時間数 : 13.5 限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 選択	配当学年 : 1年次	
開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中		
<p>【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出したり見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 家庭生活における食生活の意義と食環境等を理解し、家事の介護について学ぶ。 利用者の視点で生活支援技術を学べるようにする。</p> <p>【授業における達成課題】 年代や障害等利用者の状態に応じた食事の形態を考えた調理を実践できる。 あり合わせの食材での献立を考え、調理できるようになる。 家事の楽しさや大変さを感じ、台所の工夫などができる。</p>		
	使用教材	出版社
学生用	最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第2版	中央法規
【使用教室】		
1. HR 2. 介護実習室 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()		
【評価方法】		
1. 筆記試験 2. レポート <input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()		
【備考】		
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
【内容】 栄養士としての実務経験		

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術 I (調理)		13.5 限	古澤 美智子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1.5 限	自立に向けた家事の介護 (食生活・調理)	オリエンテーション(授業の位置づけ・進め方)。食生活とは、家事支援(調理)の意義と目的について理解する。 ・調理の介助方法について学ぶ。 ・食品の選択・保存、衛生管理、食中毒について学ぶ。	
2.5 限	自立に向けた家事の介護 (調理実習) ①	・調理実習の進め方。安全・衛生面について。調理器具の使い方・計量について。	
3.5 限		・栄養バランスのとれた献立のたて方 ・簡単な昼食(おにぎり・みそ汁・お浸し)	
4.5 限	②	・カルシウム・食物繊維の多い食事	
5.5 限			
6.5 限	③	・塩分を抑えた食事(高血圧予防)	
7.5 限			
8.5 限	④	・おやつ作り	
9.5 限		・家庭にある食材での献立を考える。(訪問介護を想定し、高齢者向けの献立とする)	
10.5 限	⑤	・飲み込みやすい食事(咀嚼困難・嚥下困難な人の場合)	
11.5 限		ソフト食 → 刻み食 → ミキサー食	
12.5 限	⑥	・家庭にある食材での食事作り。(訪問介護を想定し、高齢者向けの献立とする。)	
13.5 限		～ ④の献立によるグループごとの調理 ～	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	生活支援技術 I (生活支援の理解)	教員名	湊 和美
科目時間数 :	1.5 限	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修 ・ 選択	配当学年 :	1年次
		開講時期 :	前期 ・ 後期 ・ 集中
【授業の目的・ねらい】			
<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする</p>			
【授業全体の内容の概要】			
<p>ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につながる内容とする</p>			
【授業における達成課題】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援について理解することができる ・ 生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解することができる 			
	使用教材	出版社	
学生・教員用	最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I (第2版)	中央法規	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
<p>評価について：出席率80%以上、授業態度（ルーブリック評価参考）をもとに4段階評価する</p>			
【担当教員の実務経験の有無】			
有 ・ 無			
【内 容】 介護福祉士としての勤務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術 I		1.5 限	湊 和美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1,5 限	生活支援の理解	<p>生活支援の基本的な考え方</p> <p>生活支援と介護過程</p> <p>生活支援のチームアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援について理解し、説明することができる ・生活支援のポイントから自己の課題を挙げるすることができる 	

授業計画表

介護福祉 学科 盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術 I (災害時における生活支援)	教員名 長谷川 江利子
科目時間数 : 5 限	授業の種類 : 講義・演習・実習
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 1年次
	開講時期 : 前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 災害時における生活支援として、被災地で活動する際の心構えや生活支援の在り方と日頃からの災害に対する対策についての知識や技術を習得する学習とする</p> <p>【授業全体の内容の概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応や心構えと生活支援について 6時間 ・災害時や救急時の対応の現状について知る(消防見学) 2時間 ・東日本大震災の時の実際の被災地での活動について(特別講演) 1時間 ・振り返り 1時間 </p> <p>【授業における達成課題】 ①身近で起こり得る災害について学び、有事の際、慌てない対応ができる力を身に着ける。 ②また災害時は人の命を守る職種に就くため、日頃からの心構えと準備をしておく大切さについても学ぶ ③災害時、自分の命を守りながら、介護福祉士としてチームで利用者の生活を守ることの重要性和その役割について理解を深め、実際の場面で実践できる力をつけることができるようになる</p>	
	使用教材
出版社	
学生用	最新・介護福祉士養成講座
教員用参考	第6巻 生活支援技術 I 災害頻発時代の防災マニュアル
	中央法規出版 辰巳出版株式会社
【使用教室】	
1. HR	2. 介護実習室
3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室
7. その他	盛岡中央消防署
【評価方法】	
1. 筆記試験	2. レポート
3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他(授業内の演習課題の内容や提出物)
【備考】	
評価: 授業内で行う演習課題の内容・提出期日等を含め4段階評価する	
出席率: 学校の基準(8割)を満たすこと。不足の場合は、Dとする。	
【担当教員の実務経験の有無】 有 無	
【内容】 看護師としての勤務経験	

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術 I (災害時における生活支援)		5 限	長谷川 江利子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<u>生活支援の理解</u>	身近に起こり得る災害にはどんなものがあるのかを知る	
2 限		被災地支援について、災害直後の支援と支援体制が整ってきた後の違いについて理解する 非常持ち出し袋と3日分の備蓄について	
3 限		災害時に役に立つものを身近にあるもので作ってみよう。(紙コップや新聞紙スリッパ等)	
4 限		消防署の見学 緊急時の岩手県の初動体制や指示系統について 理解する 見学中止時は岩手県の災害についてDVDを視聴する	
5 限		被災地での支援経験のある方による特別講話 中止時：災害時の自分の取るべき行動や非常持ち出し・備蓄について自分の考えをまとめて書いてもらう	
		到達目標：災害時、身を守るための行動が取れ、 介護福祉士として適切な対応が取れるようになる	

科目名 生活支援技術 I (被服)		科目時間総数 15 限	教員名 鈴木由美子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限	<u>生活支援の理解</u>	自立生活での家事の重要性が理解できる	
2限	<u>生活支援の理解</u>	介護関連多職種との連携が理解できる	
3限	<u>自立に向けた家事の介護 家事支援</u>	家事介護内容を分析し作業を計画できる	
4限	<u>自立に向けた家事の介護 家事支援</u>	一定時間内での作業ができる	
5限	<u>自立に向けた家事の介護 衛生環境支援</u>	衛生的な住まい環境を理解できる	
6限	<u>自立に向けた家事の介護 衛生環境支援</u>	〃	
7限	<u>自立に向けた家事の介護 衛生環境支援</u>	場所に対応した掃除技法を実践できる	
8限	<u>自立に向けた家事の介護 家計管理支援</u>	高齢者の消費トラブル防止が理解できる	
9限	<u>自立に向けた家事の介護 家計管理支援</u>	利用者に対応した買い物支援ができる	
10限	<u>自立に向けた家事の介護 衣生活の支援</u>	高齢者、障がい者に対応した衣類・寝具の調整が実践できる	
11限	<u>自立に向けた家事の介護 衣生活の支援</u>	衣類に応じた洗濯技法を実践できる	
12限	<u>自立に向けた家事の介護 衣生活の支援</u>	適切な衣類寝具類の管理方法を実践できる	
13限	<u>自立に向けた家事の介護 衣生活の支援</u>	基礎的縫製技術を習得する	
14限	<u>自立に向けた家事の介護 衣生活の支援</u>	〃	
15限	<u>自立に向けた家事の介護 衣生活の支援</u>	状況に応じた衣類補修が実践できる	

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	生活支援技術Ⅱ	教員名	長谷川 江利子・湊 和美 阿部 真由美・中川 貴久江
科目時間数 ：	65 限	授業の種類 ：	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 ：	必修 ・ 選択	配当学年 ：	1年次
		開講時期 ：	前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「こころとからだのしくみ」と関連付けて進度を調整し、履修内容をつなげて学生が理解できるようにする。初めに見守りが必要な利用者を設定し演習を展開する。そこでADLの基本、潜在能力の引き出し、それを活用・発揮させることの意義を学んでから、一部介助・全介助を習得する。</p> <p>【授業における達成課題】 ・利用者個人の尊厳を保持しながら、利用者が主体的に生活できるよう支援し、喜びを感じてもらえる環境づくりをすることの大切さを理解する。 ・利用者の状態・症状に応じた介護の留意点を理解した上で、習得した技術を実践できるようになる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ（第2版） 生活支援技術Ⅱ（第2版）	中央法規出版	
教員用	同上		
【使用教室】			
1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（入浴実習室）			
【評価方法】			
1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）			
【備考】			
評価について：出席率80%以上、各单元ごとの筆記試験（60点以上を合格）及び実技試験（单元ごと減点方式により-5~-3以下を合格）を勘案し4段階評価とする			
【担当教員の実務経験の有無】			
有 ・ 無			
【内 容】 看護師、介護福祉士としての勤務経験			

科目名 生活支援技術Ⅱ（バイタルサイン）		科目時間総数 8.5限	教員名 長谷川 江利子
コマ数	テーマ 毎時間	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
限	時間		
1		<u>生活支援の理解</u>	(座学) 観察の重要性 バイタルサインとは 体温・脈拍・呼吸
2			(演習①) 体温・脈博・呼吸の測定
3			(座学) 血圧について・循環器のしくみ
4			聴診器で自分の心臓の音を聞いてみよう 小テスト
5			(演習②) 血圧測定
6			(演習③) 体温・脈拍・呼吸・血圧測定
7			実技試験
8			実技試験
8.5			到達目標：①生命徴候であるバイタルサインを正しく理解し それが異常なのか正常範囲なのか判断できる ②正確にスムーズに測定できるようになる。

科目名 生活支援技術Ⅱ (食事)		科目時間総数 4限	教員名 長谷川 江利子
コマ数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
限			
1	オリエンテーション	食事の意義と目的を理解する	
2	<u>自立に向けた食事の介護</u>	摂食のメカニズムと正しい姿勢について説明できる 食事に関する利用者の観察について 誤嚥・脱水の予防ができる	
3		寝食分離について説明できる 食事に関する利用者のアセスメント おいしく食べることを支える介護について説明できる 他の職種との役割と協働について説明できる	
4		安全な食事介助の技法（演習） 怖い・不快な介助について理解できる	

科目名 生活支援技術Ⅱ（移動）		科目時間総数 11 限	教員名 湊 和美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1.5 限	オリエンテーション <u>自立に向けた移動の介護</u>	授業の位置づけの理解 自立した移動・一連の流れについて理解する 自立に向けた移動の介護をするために介護福祉職がすべきことを理解し、答えられるようになる ボディメカニクスについて学ぶ ・ボディメカニクスを答えられるようになる 安楽な姿勢・体位を理解 ・褥瘡の原因、好発部位、予防・対応について学び、答えられるようになる 多職種連携の必要性	
8 限		【演習】自立に向けた移動・移乗の介護／ボディメカニクスの実践 ①上方移動 ②水平移動 ③仰臥位から側臥位 ④起き上がりから端座位 ⑤端座位から立位 ⑥杖歩行・介助 ⑦端座位から車いすへの移乗 ⑧安楽な体位	
1 限		実技試験	
0.5 限		筆記試験	

科目名 生活支援技術Ⅱ（排泄）		科目時間総数 10 限	教員名 湊 和美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
2 限	オリエンテーション	授業の位置づけの理解	
	自立に向けた排泄の介護	<p>自立した排泄・一連の流れについて理解する 自立に向けた排泄の介護をするために介護福祉職がすべきことを理解し、答えられるようになる 頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応 ・自然排尿、自然排便を困難にするおもな排泄障害を学ぶ ・予防、対応について学ぶ ・座薬挿入、浣腸⇒医療行為とは 多職種連携の必要性</p>	
7 限		<p>【演習】介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な介助方法を実践する ①ポータブルトイレでの排泄介助 ②尿器・差し込み便器 ③おむつ交換</p>	
1 限		<p>実技試験 筆記試験</p>	
		<p>他職種の役割と協働</p>	
		<p>筆記試験</p>	

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術Ⅱ（入浴）		8,5 限	中川貴久江
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<u>自立に向けた入浴・清潔の保持の介護</u>	オリエンテーション 自立した入浴・清潔保持の授業の位置づけを理解する	
2 限		(座学) 自立した入浴・清潔保持について理解する	
3 限		(座学) 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴と入浴の方法について理解する	
4 限		(座学) 清拭・部分浴について学ぶ 陰部清拭・・・人形用いて学ぶ	
5 限		(演習) ベッド上での洗髪を理解する。	
6 限		(演習) 全身清拭、部分浴・・・足浴、手浴を理解する	
7 限		(演習) 特殊浴槽での入浴介助を理解する	
8 限		‘	
9 限		修了試験 (0.5限)	
10 限			
11 限			
12 限			
13 限			
14 限			
15 限			
16 限			
17 限			
18 限			
19 限			
20 限			
21 限			
22 限			
23 限			
24 限			
25 限			
26 限			
27 限			
28 限			

科目名 生活支援技術Ⅱ（睡眠）		科目時間総数 1.5限	教員名 長谷川 江利子
コマ数	テーマ 毎時間	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
限	時間	オリエンテーション <u>自立に向けた休息</u> <u>睡眠の介護</u>	睡眠の意義と目的 睡眠のメカニズム 不眠とは 環境整備 睡眠に関する利用者のアセスメント 安眠のための介助 安眠を促す介助の技法 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点 他の職種との役割と協働 到達目標：不眠の原因や安眠のためのメカニズムを理解し、 安眠できる環境整備や支援を行うことができる。
1	0.5		

科目名 生活支援技術Ⅱ（終末期）		科目時間総数 1.5限	教員名 長谷川 江利子
コマ数	テーマ 毎時間	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
限	時間		
1		<u>人生の最終段階における 介護</u>	終末期における介護の意義、目的 ターミナルケア・グリーフケア トータルペイン・スピリチュアルペイン等の用語の理解 死の受容 終末期における利用者のアセスメント 医療との連携
0.5			終末期・臨終時の介護 異常呼吸 死亡の診断 死後硬直とエンゼルケア 到達目標：死を迎える人とその家族の心の変化について理解し 看取りに携わる者として医療職と連携しながらどのような 終末期を送ってもらおうかを考えることができる。

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅱ (緊急時対応の知識と技術)	教員名 長谷川 江利子				
科目時間数 : 5限	授業の種類 : 講義・演習・実習				
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 1年次 開講時期 : 前期・後期・集中				
<p>【授業の目的・ねらい】 1. 事故を予防するとともに、起こりうる状態の変化を予測し、予防策と応急処置に対する心構えをしておく。 2. 傷病者を速やかに救助し、正しい応急手当をして、救命のリレーができる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 自分の安全を確保したうえで、救助活動に関わるような知識と技術を身に付けられるような授業にします</p> <p>【授業における達成課題】 緊急時の対応をを安全に適切に実施できる知識と技術を身につけ、確実な技術を提供できる。</p>					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 30%;">使用教材</th> <th style="width: 70%;">出版社</th> </tr> <tr> <td> 学生用 教員用参考 応急手当講習テキスト 最新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ </td> <td> 一般財団法人 救急振興財団 中央法規出版 </td> </tr> </table>	使用教材	出版社	学生用 教員用参考 応急手当講習テキスト 最新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ	一般財団法人 救急振興財団 中央法規出版
使用教材	出版社				
学生用 教員用参考 応急手当講習テキスト 最新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ	一般財団法人 救急振興財団 中央法規出版				
<p>【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>					
<p>【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>					
<p>【備考】 筆記試験：60点以上が合格〔評価目安 A:80点以上、B:79点～70点、C:69点～60点、D:59点以下（不合格）〕 出席率：学校の基準（8割）を満たすこと。不足の場合は、Dとする。</p>					
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 無</p>					
<p>【内 容】 看護師としての勤務経験</p>					

科目名 生活支援技術Ⅱ (緊急時対応の知識と技術)		科目時間総数 5限	教員名 長谷川 江利子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	オリエンテーション <u>生活支援の理解</u>	<p>授業の位置づけの理解</p> <p>利用者の心身の安全を守り、安心、安楽な生活を支援する事ができる</p> <p>万一の事故に備えて応急手当のポイントを習得する。</p> <p>救助者の心構えについて理解し説明できる</p> <p>救急法の原則について説明できる</p> <p>到達目標：救急法の原則や心構えについて理解する</p>	
2	応急処置・緊急時対応 の実際	<p>直ちに手当が必要な6項目について (意識障害・呼吸停止・心停止・大出血・ひどい熱傷・気道内異物)</p> <p>ショックについて理解する</p> <p>安楽な体位について理解する</p> <p>搬送法について理解する</p> <p>救急車の呼び方を理解する</p> <p>到達目標：事故発生時、適切な対応で救急車を要請できる</p>	
3 4 5	緊急時の対応について	<p>高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を学ぶ</p> <p>緊急時における連携のあり方を理解する</p> <p>・想定される事故と予防の視点</p> <p>① 外傷について</p> <p>② 止血について</p> <p>③ 特殊なけがについて</p> <p>④ 骨折について</p> <p>⑤ R I C Eの処置について</p> <p>⑥ 熱傷について</p> <p>⑦ 気道内異物について</p> <p>到達目標：事故発生時、落ち着いて適切な対応と処置ができる</p>	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生活支援技術Ⅱ		教員名 高橋正之	
科目時間数 : 12.5 限		授業の種類 : 講義・演習・実習	
必修・選択の別 : 必修・選択	配当学年 : 2年次	開講時期 : 前期・後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 知的・精神・高次脳機能・発達障害に応じた介護知識の習得。 障害が生み出される構造と、生活上の困りごとを理解し、生活全般の支援のあり方について学ぶ。 障害をもつ人が社会生活上であらう多様な社会的障壁とその解消に必要なことについて理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 各障害の臨床的理解に限らず、年齢・性別など障害の多様な捉え方や社会・生活環境から見た障害の理解など、事例を掲げ障害者にとってより良い生活環境やそれを実現するために介護者として求められる知識や技術について学ぶ</p> <p>【授業における達成課題】 ICFを基盤に置きながら、現代社会における「障害の捉え方の多様性」について理解を深め、地域共生社会の実現に向け、対象となる障害児者一人一人にあった介護のあり方について自身で考えることができるようになる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用・教員用 共通	最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ	中央法規出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】 授業全日程終了時に行う筆記試験において、以下の通り評価する。 評価について : A(80点以上) 、 B (79~70点) 、 C (69~60点) 、 D (59点以下) の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有・無			
【内容】 社会福祉士国家資格 知的障害児施設において児童指導員として6年勤務。			

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術Ⅱ		12.5 限	高橋正之
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1 限	生活支援の理解	障害の構造と生活の理解	
2 限	生活支援の理解	障害の構造と生活の理解	
3 限	生活支援の理解	知的障害の理解と生活上の困りごと	
4 限	生活支援の理解	支援の展開	
5 限	生活支援の理解	精神障害の理解と生活上の困りごと	
6 限	生活支援の理解	支援の展開	
7 限	生活支援の理解	高次脳機能障害の理解と生活上の困りごと	
8 限	生活支援の理解	支援の展開	
9 限	生活支援の理解	発達障害の理解と生活上の困りごと	
10 限	生活支援の理解	支援の展開	
11 限	生活支援の理解	障害者をもって暮らすことの意味と課題	
12 限	生活支援の理解	障害をもつ人の意思決定支援のあり方	
13 限	生活支援の理解	まとめ	
14 限			
15 限			
16 限			
17 限			
18 限			
19 限			
20 限			
21 限			
22 限			
23 限			
24 限			
25 限			
26 限			
27 限			
28 限			

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	生活支援技術Ⅱ	教員名	我妻 信子
科目時間数 ：	9 限	授業の種類 ：	講義・演習・実習
必修・選択の別 ：	必修・選択	配当学年 ：	2年次
		開講時期 ：	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 視覚・聴覚・盲ろうの障害について医学的、心理的側面、生活上の困りごとを理解する。生活を支援する方法、及び留意点を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 視覚・聴覚・盲ろうの障害について理解し、必要な支援の方法を実践して介助方法を習得する。</p> <p>【授業における達成課題】 利用者が主体的に生活できるよう支援し、喜びを感じてもらう環境づくりをすることの大切さを理解し、状態、症状に応じた介護の留意点を理解し技術を習得する。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ	中央法規出版	
【使用教室】			
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
【評価方法】			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度
5. 実技試験	6. その他 ()		
【備考】			
評価について出席率80%以上、実技・筆記試験合わせて70点以上			
【担当教員の実務経験の有無】			
有・無			
【内容】			
手話通訳・指導の勤務経験			

科目名 生活支援技術Ⅱ		科目時間総数 9 限	教員名 我妻 信子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	オリエンテーション 生活支援の理解	授業方針・授業の位置付けを理解する	
2 限	先天性・中途視覚障害	先天性・中途視覚障害の理解と生活上の困りごとを知る（観察の視点） 移動・コミュニケーション・日常生活（買い物・調理・食事）就労の支援について学ぶ	
3 限		<ul style="list-style-type: none"> ・アイマスク体験と歩行誘導の支援体験 ・中途視覚障害の中学教師 新井淑則のDVD鑑賞、演習問題 	
4, 5, 6 限	聞こえの仕組み	外耳・中耳・内耳を理解する（耳の模型を使用） 難聴の種類（伝音・感音・混合性）、音の大きさを理解する 聴覚障害者の種類（ろう者・中途失聴者・難聴者・盲ろう者）を理解し、述べることができる 各障害におけるコミュニケーション方法、生活支援技術を身につける	
7 限	重複障害	重複障害とは、盲ろう重複障害について理解する	
8 限		東京大学教授 福島智氏の記録などを引用して心理の理解を深める 個々のニーズに対応するコミュニケーション方法を身につける	
9 限		筆記試験・実技試験	

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	生活支援技術Ⅱ (内部障害)	教員名	中川貴久江
科目時間数 :	13.5 限	授業の種類 :	講義・演習・実習
必修・選択の別 :	必修・選択	配当学年 :	2
		開講時期 :	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする様々な状態・状況の利用者を理解し、個別性を重視した適切な介護技術や知識を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ・内部障害（心臓・腎臓・呼吸器・膀胱直腸・肝臓）を理解する。 ・障害がある方の適切な生活支援と自立に向けた介護。 ・多職種役割と協働、連携について。</p> <p>【授業における達成課題】 ・内部障害（心臓・腎臓・呼吸器・膀胱直腸・肝臓）を理解する。 ・それぞれの状況に応じた介護の提供を考えることができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用・教員用	最新・介護福祉士養成講座8 第8巻 生活支援技術Ⅲ	中央法規出版	
【使用教室】			
①. HR ②. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】			
①. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 ④. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
評価について、筆記試験の点数によりA（80点以上）、B（79～70点以上）、C（69～60点以上）、D（59点以下）とする。また出席率（80%以上）及び授業態度（ルーブリック評価参考）も評価対象とする。			
【担当教員の実務経験の有無】		有 無	
【内 容】 看護師としての勤務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
生活支援技術Ⅱ		13, 5 限	中川貴久江
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	生活支援の理解	オリエンテーション (授業の進め方)	
2 限	・内部障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 ・内部障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	・心臓機能障害について理解しまたその特性について理解する。 ・心臓機能障害のある利用者に対しての支援方法及びその留意点を理解する。	
3 限		・腎臓機能障害について理解しまたその特性について理解する。 ・腎臓機能障害のある利用者に対しての支援方法及びその留意点を理解する。	
4 限		・呼吸器機能障害について理解しまたその特性について理解する。 ・呼吸器機能障害のある利用者に対しての支援方法及びその留意点を理解する。	
5 限		・膀胱直腸機能障害について理解しまたその特性について理解する。 ・膀胱直腸機能障害のある利用者に対しての支援方法及びその留意点を理解する。	
6 限		・肝臓機能障害について理解しまたその特性について理解する。 ・肝臓機能障害のある利用者に対しての支援方法及びその留意点を理解する。	
7 限		・多職種役割と連携方法を理解する。 テスト対策	
8 限		多職種役割と連携方法を理解する。 テスト対策	
9 限		多職種役割と連携方法を理解する。 テスト対策	
10 限		多職種役割と連携方法を理解する。 テスト対策	
11 限		多職種役割と連携方法を理解する。 テスト対策	
12 限		多職種役割と連携方法を理解する。 テスト対策	
13 限		多職種役割と連携方法を理解する。 テスト対策	
13.5 限		修了試験 (0.5限)	

授業計画表

介護福祉学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 <p style="text-align: center;">介護過程 I</p>	教員名 <p style="text-align: center;">湊 和美</p>	
科目時間数： 37.5 限	授業の種類： <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： <u>必修</u> ・ 選択	配当学年： 1, 2年次	
開講時期： <u>前期</u> ・ <u>後期</u> ・集中		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>介護過程の意義と目的について学び「アセスメント」「計画の立案」「実施」「評価」の4つのプロセスについて基礎的な知識を身につける。プロセスごとに事例を用いた演習をし、実際に介護過程を展開する方法を学ぶ</p> <p>〔授業における達成課題〕</p> <p>適切に介護過程を展開できる力を養い、介護福祉士としてチームで利用者の生活を支えることの重要性と役割について理解を深める。演習及び実習において介護過程の展開を実践できるようになる</p>		
	使用テキスト・参考文献	出版社
学生用 教員参考用	最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程（第2版） 介護福祉用語辞典	中央法規出版 中央法規出版
<p>【使用教室】</p> <p>1. <u>HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>1. <u>筆記試験</u> 2. レポート 3. <u>出席</u> 4. 授業態度 5. 実技試験 6. <u>その他</u>（授業内の演習課題の内容や提出物）</p>		
<p>【備考】</p> <p>評価について：1年次は出席率80%以上を受験対象とした上で、筆記試験60点以上を合格とし、さらに演習課題の内容や提出物も勘案した上でA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階評価とする。2年次は授業内で行う演習課題の内容や提出期日、出席率を勘案して4段階評価する。</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無</p>		
<p>【内容】 介護福祉士としての勤務経験</p>		

科目名 介護過程 I		科目時間総数 37.5限	教員名 湊 和美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	オリエンテーション	授業の進め方、受け方、科目の位置づけ、評価方法を理解し、学びの準備を進める	
2限 3限 4, 5限 6限	<u>介護過程の意義と 基礎的理解</u>	<p>介護過程とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義、目的について学ぶ ・介護過程の展開（流れ）について説明できるようになる ・ICFの考え方について説明できるようになる 	
7, 8限		<p>介護過程の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント（情報収集）の必要性について学ぶ <p>【実習前演習】 （仮）情報収集の第1段階「見るポイント」について</p>	
9限			
10～ 12限		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）の思考の方法について学ぶ ・個別ケアの必要性について述べることができる 	
13, 14限			
15限		試験・解説	
16～ 18限		<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の意義を理解する ・介護目標の設定から立案までのポイントを述べるができる ・実施における留意点を学ぶ ・実施後の記録の意義と留意点を学ぶ ・評価の内容と方法、重要性を学ぶ 	
19～ 25限			
26～ 30限	<u>介護過程と チームアプローチ</u>	<p>介護過程の実践的展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例から介護過程の展開について学ぶ ・テキスト以外の事例を用いて演習を行う 	
31～ 37.5 限		<p>介護過程とケアマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントについて学ぶ ・ケアプランと個別援助計画の関係性について理解する ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する 	
	<u>介護過程の展開の理解</u>	<p>利用者の生活と介護過程の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活することの意味、人生の尊さについて考える ・介護福祉士の魅力について考え、自分の介護観を述べる ことができる 	

授業計画表

介護福祉学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 <p style="text-align: center;">介護過程Ⅱ</p>	教員名 湊 和美、中川貴久江 阿部真由美 長谷川江利子	
科目時間数： 37.5 限	授業の種類： <u>講義</u> ・ <u>演習</u> ・ 実習	
必修・選択の別： <u>必修</u> ・ 選択	配当学年： 1, 2年次	
開講時期： <u>前期</u> ・ <u>後期</u> ・集中		
[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする [授業全体の内容の概要] ・学生が主体的に学べるよう、介護実習での事例（受け持ち利用者）から介護過程の展開における演習を行う。また最終実習については実習報告書としてまとめる。 ・卒業実技試験へ向けての取り組み（練習） [授業における達成課題] 個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解することができる。		
	使用テキスト・参考文献	出版社
学生用 教員用	最新 介護福祉士養成講座 介護過程（第2版）	中央法規出版
【使用教室】 1. <u>HR</u> 2. <u>介護実習室</u> 3. 家政実習室 4. <u>視聴覚室</u> 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）		
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. <u>出席</u> 4. <u>授業態度</u> 5. <u>実技試験</u> 6. <u>その他</u> （ 事例研究論文の提出 ）		
【備考】 ・事例研究論文の作成とPPによる発表をもって合格とする ・卒業実技試験 減点法により7点以下が合格とする		
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無		
【内 容】 介護福祉士、看護師としての勤務経験		

科目名 介護過程Ⅱ		科目時間総数 37.5 限	教員名 湊 和美・中川 貴久江 阿部 真由美・長谷川 江利子
コマ数	教育に含むべき事項	主な学習内容	
限 1) 7.5	介護過程の展開の理解	<p>情報収集とアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとのすべき情報収集 ・解釈・分析 ・生活支援の課題と目標設定 <p>10日間の実習で行った情報収集から解釈・分析につなげる思考過程を身につける</p>	
1) 15	(2年次)	<p>事例研究論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・事例研究発表会にて発表 	
16) 30	(2年次)	<p>卒業実技試験対策（実技練習）</p>	

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護総合演習	教員名	湊 和美・阿部 真由美
科目時間数 ：	55 限	授業の種類 ：	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 ：	必修 ・ 選択	配当学年 ：	1, 2年次
		開講時期 ：	前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実習に向けて、心構え・予備知識・動機付けの準備を行い、介護実習中には実践力を身につけることができるよう指導する。各実習終了後には実習報告会等を通して情報交換し、自己の振り返りを行う。</p> <p>【授業における達成課題】 ・居宅、通所、入所等の介護施設の概要と利用者の生活像と、介護福祉士の役割を理解できる。 ・基本的コミュニケーション方法やマナー、記録の取り方などを身につける。 ・実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を明確化し、次回の実習や就職で活かすことができる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	介護実習で困らないためのQ&A	中央法規出版	
	介護福祉用語辞典	中央法規出版	
教員用	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	
<p>【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
<p>【備考】 評価について：出席率80%以上、授業態度（ルーブリック評価参考）をもって4段階評価とする</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無</p>			
<p>【内容】 介護福祉士としての勤務経験</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
介護総合演習		55 限	湊 和美・阿部 真由美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	(1年次) オリエンテーション 知識と技術の統合	授業の位置づけの理解・実習の意義と目的について学ぶ	
2 限		実習Ⅰ－①／事前指導	
3 限		施設理解（特別養護老人ホーム・介護老人保健施設について知る）	
4 限		実習Ⅰ目標について理解する	
5 限		実習配置発表⇒自己紹介書書き	
6 限		実習の心構え・マナー・接遇について学ぶ	
7 限		事前訪問	
8 限		記録の書き方を身につける	
9 限		実習Ⅰ－①／事後指導 ⇒お礼状書き	
10 限		実習の振り返り	
11 限		実習Ⅰ－②,Ⅱ－1段階／事前指導	
限		施設理解（身体障害者療護施設・通所介護・通所リハについて知る）	
限		実習Ⅰ・Ⅱ目標について理解する	
～ 限		実習配置発表⇒自己紹介書書き	
限		配布物の説明と各留意点を学ぶ	
限		介護過程の展開（情報収集）方法とアセスメント表（1）の内容や書き方を理解し、実践力を身につける	
19 限		事前訪問	
20 限		実習Ⅰ－②,Ⅱ－1段階／事後指導 ⇒お礼状書き	
21 限		実習の振り返り	
21.5 限			
22 限		実習Ⅰ－③／事前指導 ⇒意義と目的	
限		施設理解（小規模多機能・GH・生活介護事業所・就労支援） 実習目標・多様なサービスの理解	
～ 限		実習配置発表⇒自己紹介書書き	
限		配布物の説明と各留意点を学ぶ	
限		実習Ⅰ－③／事後指導 ⇒お礼状書き、施設情報のまとめ	
24.5 限		実習の振り返り	
1 限	(2年次)	実習Ⅱ－2段階／事前指導 ⇒意義と目的	
限		実習目標について理解する	
～ 限		実習配置発表⇒自己紹介書書き	
限		介護過程の展開（情報収集⇒生活課題の明確化⇒介護計画の立案）方法とアセスメント表(1)(2)、個別介護計画の書き方を学ぶ	
13.5 限		事前訪問	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
14～ 限		実習Ⅱ－2段階／事後指導 ⇒お礼状書き
15.5 限		実習の振り返り・施設情報のまとめ
16 限 ～		実習Ⅰ－④／事前指導 ⇒訪問介護実習の意義と目的 同行訪問に必要な基本的態度と健康管理について学ぶ
16.5 限		家族への援助・生活支援の方法・関係職種との連携について学ぶ
17 限 ～	<u>介護実践の科学的探究</u>	実習Ⅱ－3段階／事前指導 ⇒意義と目的 実習目標について理解する 実習配置発表⇒自己紹介書書き 介護過程の展開（情報収集⇒生活課題の明確化⇒介護計画の立案）方法とアセスメント表(1)(2)、個別介護計画の書き方の最終確認 個別介護の実施・評価・介護観の書き方を学ぶ 実施の方法・留意点の確認 実習期間中のレクリエーション実施時の留意点 事前訪問
28.5 限		実習Ⅱ－3段階／事後指導 ⇒お礼状書き 実習の振り返り・施設情報のまとめ 介護過程Ⅱ（事例研究）に向けて

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護総合演習	教員名 箱石 隆子	
科目時間数 : 5 限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 1年次 開講時期 : 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 国語の基礎力を強化し、報告書作成力を身につける</p> <p>【授業全体の内容の概要】 わかりやすい文章の書き方等、報告書作成のポイントを学ぶ</p> <p>【授業における達成課題】 表現力を培い論理的な文章の書き方を身につける</p>		
	使用教材	出版社
【使用教室】		
1. <input checked="" type="checkbox"/> HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室
4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室
7. その他 ()		
【評価方法】		
1. <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験	2. レポート	3. <input checked="" type="checkbox"/> 出席
4. 授業態度	5. 実技試験	
6. その他 ()		
【備考】		
出席率100%、筆記試験60点以上で単位認定		
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
【内容】 高等学校国語教諭の経験		

科目名 介護総合演習		科目時間総数 5 限	教員名 箱石 隆子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	オリエンテーション 短く書く	授業の位置付けについて理解する 到達目標「正確で分かりやすい文章を書く」 一文を短く書くことができるようになる（過剰な説明は削る、長い文章は二文に）	
2 限	同じ言葉を省く 言葉を選ぶ	同じ言葉、同じ意味の言葉の重複と「こと、もの、の」の重複解消ができるようになる 文体統一、標記ルールと回りくどい表現の解消ができるようになる	
3 限	具体的に書く リズムと流れ	自分の言葉でより具体的にかくことができるようになる 句読点の使い方・打ち方、改行、段落のつけ方を理解する	
4 限	言葉の入れ替え 推敲	主語・述語・就職後の基本ルールと語順を理解する 推敲術を習得する	
5 限	文章作成	文章作成の基本的な方法と手順により、相手にわかりやすい文章作成ができる	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護実習 I	教員名	湊 和美 阿部 真由美 中川 貴久江 長谷川 江利子
科目時間数 :	136 時間	授業の種類 :	講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 :	必修 ・ 選択	配当学年 :	1, 2年次
		開講時期 :	前期 ・ 後期 ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。 ③対象者の生活と地域の関わりや、地域での生活を支える施設・期間の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。</p> <p>【授業における達成課題】 ・様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解することができる。 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。</p>			
	使用教材	出版社	
教員参考用	最新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第9巻 介護過程	中央法規出版	
【実習場所】 『厚生労働大臣が別に定めるもの』の中で、実習 I の要件に該当する施設			
【評価方法】 介護実習 I - ①②③④それぞれの実習終了後、各施設の実習指導者の評価を参考にし、学校として総合的に評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】 介護福祉士・看護師としての勤務経験			

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名	介護実習Ⅱ	教員名	湊 和美・阿部 真由美 中川 貴久江 長谷川 江利子
科目時間数 ：	320	時間	授業の種類 ：
必修・選択の別 ：	(必修)・選択	配当学年 ：	1,2年次
		開講時期 ：	(前期)・(後期)・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。 ②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。 ③対象者の生活と地域の関わりや、地域での生活を支える施設・期間の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。</p> <p>【授業における達成課題】 ・個々の生活リズムや個性を理解し、介護過程を展開させることができる。 ・他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p>			
	使用教材	出版社	
教員参考用	最新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習 第9巻 介護過程	中央法規出版	
【実習場所】			
『厚生労働大臣が別に定めるもの』の中で、実習Ⅱの要件に該当する施設			
【評価方法】			
介護実習Ⅱ－1段階・2段階・3段階それぞれの実習終了後、各施設の実習指導者の評価を参考にし、学校として総合的に評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】			
(有)・無			
【内容】			
介護福祉士・看護師としての勤務経験			

科目名 実習Ⅰ・Ⅱ		科目時間総数 456 時間	教員名 湊 和美 中川 貴久江 長谷川 江利子 阿部真由美
時間数	テーマ	主な学習内容と到達目標	
40	実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解する。 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士など）協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 	
40	<u>多職種協働の実践</u>	実習Ⅰ－① （1年次の7月、5日間）	
48		実習Ⅰ－② （1年次の11月、5日間）	
8		実習Ⅰ－③ （1年次の3月、6日間）	
		実習Ⅰ－④ （2年次の夏期休暇もしくは冬期休暇、1日間）	
40	実習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活リズムや個性を理解し、介護過程を展開させる。 ・他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。 	
120	<u>多職種協働の実践</u>	実習Ⅱ－1段階 （1年次の11月～、5日間）	
160	<u>地域における生活支援の実践</u>	実習Ⅱ－2段階 （2年次の6月、15日間）	
		実習Ⅱ－3段階 （2年次の10月、20日間）	

授業計画表

介護福祉学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 発達と老化の理解		教員名 宍戸 弘子	
科目時間数 : 30 限		授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	配当学年 : 1年次	開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 一人の高齢者を理解しようとするとき、その人の現在だけでなくこれまでどのような人生を送ってきたのか尊厳をもって理解することが重要。そこで、人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化、老化や疾病が生活に及ぼす影響を理解した上でライフサイクルの特徴に応じた個別ケアの基本を学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ◎人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識をまとめる。 ◎老化にともなう身体機能の変化とその特徴、高齢者に多くみられる疾患と生活への影響など基礎的な知識をまとめる。 ◎演習問題、国家試験問題、作問・解答をとおして理解の定着・確認をする。</p> <p>【授業における達成課題】 ◎人間の成長と発達・「老年期」の発達と成熟について身近な例と結びつけることができる。 ◎老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と高齢者に多い疾病の特徴を説明できる。 ◎健康の維持・増進を含めた生活支援介護の根拠として活かすことができる。 ◎「高齢者」を肯定的にとらえ尊厳保持や自立支援を踏まえた介護について自分の考えを持つ。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解(第2版)	中央法規出版	
<p>【使用教室】 <input checked="" type="checkbox"/> 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 <input checked="" type="checkbox"/> 7. その他 (必要に応じてWEB)</p>			
<p>【評価方法】 <input checked="" type="checkbox"/> 1. 筆記試験 2. レポート <input checked="" type="checkbox"/> 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 6. その他 (提出物)</p>			
<p>【備考】 筆記試験 : 60点以上が合格 出席率 : 学校の基準 (8割) を満たすこと。不足の場合は、Dとする。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>			
<p>【内 容】 看護師としての実務経験</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
発達と老化の理解		30 限	宍戸 弘子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	人間の成長と発達の基礎的理解 (第1章) (第2章) 1節・2節	授業のねらい (介護を必要とする人の理解を深めるために)	
4/21		人間の 成長と発達 の過程を身近な例と結びつけることができる 演習1	
2 限		発達理論とはどのようなものであるか、エリクソン、ピアジェ、バルテスらの 発達段階と発達課題 の考え方や特徴がわかる	
5/12		3節 身体的機能の成長と発達の特徴、また、発達にともなう特徴的な疾病や障害を身近な例と結びつけることができる	
3 限	老年期の発達と成熟 (第3章) 1節・2節	4節・5節 心理的機能の発達・社会的発達について、身近な例と結びつけることができる	
5/19		国家試験問題 演習2	
4 限		老年期の定義 の必要性がわかる (WHO、老人福祉法、老人保健法など)	
5/26		老化・加齢の用語の定義、老化学説を身近な例と結びつけることができる	
5 限	老化に伴うこと からだの変化と日常生活 (第4章)	3節・4節 老年期の発達課題 の特徴を理解し、身近な例と結びつけることができる (ハヴィガースト・エリクソンらの老年期の発達課題、人格と尊厳・老いの価値)	
6/2		老年期の発達課題 の特徴を理解し、身近な例と結びつけることができる (喪失体験、セクシュアリティ、老年期をめぐる今日の課題) 演習3	
6 限		1節 恒常性が低下する老化のしくみを理解し、フレイルを説明できる	
6/9		ロコモ、骨・筋系の変化を理解し、要介護の要因として示すことができる	
7 限	6/30 実習	脳・神経系の機能の変化を理解し生活への影響を考慮することができる	
6/16		感覚器系の機能の変化を理解し生活への影響を考慮することができる	
8 限		血液・循環器の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
6/23		呼吸器系の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
9 限	7/28 夏休	消化器系の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
6/30		腎・泌尿器系の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
10 限		生殖器系、内分泌・代謝系、免疫系の変化を理解し、生活への影響を考慮できる	
7/14		確認小テスト 演習4-1	
11 限	9/1	2節 認知機能・知覚機能の変化について理解し、例を挙げることができる (記憶・知能)	
7/21		パーソナリティ・サクセスフルエイジングなどを理解し例を示すことができる	
12 限		マズローの理論、適応機制的特徴を理解し説明できる 演習4-2・3	
9/8		3節 社会的変化から課題がわかる エイジズムを基にした尊厳保持の考え方ができる	
13 限	9/15	高齢者の社会的活動の現状と課題、老化理論の考え方 演習4-4	
14 限			
15 限			

科目名 発達と老化の理解		科目時間総数 30 限	教員名 宍戸 弘子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
16 限 9/22	高齢者と健康 (第5章)	1節	健康長寿の背景、サクセフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジング 演習5-1
		2節	高齢者の症状や疾患の特徴を示すことができる 演習5-2
17 限 9/29		3節	骨格系・筋系の疾患を理解し生活上の留意点を挙げる事ができる
18 限 10/6			骨格系・筋系の疾患を理解し生活上の留意点を挙げる事ができる
19 限 10/13			脳・神経系の疾患を理解し特徴を挙げる事ができる
20 限 10/20			皮膚感覚系の疾患を理解し特徴を挙げる事ができる
21 限 10/27			テスト（第4章）
			循環器系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げる事ができる
22 限 11/10			循環器系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げる事ができる
23 限 11/17 実習			呼吸器系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げる事ができる 消化器系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げる事ができる
24 限 12/8		腎・泌尿器系の疾患を理解し生活上の留意点を挙げる事ができる	
25 限 12/15		テスト（第5章 消化器まで）	
26 限 12/22 冬休		内分泌系・代謝系の疾患を理解し特徴と生活上の留意点を挙げる事ができる	
27 限 1/26		歯・口腔疾患のしくみと特徴を理解しケアの留意点を挙げられる 悪性新生物の疾患の原因、症状、治療を理解しケア上の参考にできる	
28 限 2/2		感染症の原因、症状と施設内感染を予防する方法を理解しケアに活かせる 精神疾患のしくみや特徴を理解し尊厳保持の介護に活かす事ができる	
29 限 2/9		近年多い熱中症、脱水症、貧血のしくみを理解し、早期対応の仕方がわかる 演習5-3	
30 限 2/16		修了テスト（腎～最後までを中心にして 全範囲）	
	4節	保健医療職との連携について理解し、演習5-4の自分の考えを示す事ができる	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 認知症の理解	教員名 阿部真由美		
科目時間数 : 30 限	授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習		
必修・選択の別 : 必修・選択	担当学年 : 1, 2年次	開講時期 : 前期・後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。認知症の症状と原因疾患を学び医学面、心理面で理解するとともに、認知症が生活に与える影響を理解・分析し、ステージに応じた介護と「その人らしく暮らす」サポートについて学ぶ</p> <p>【授業全体の内容の概要】 認知症ケアの歴史を振り返り、これからのケアの理念について考える。認知症の人の心理、精神状況を理解し、多職種が連携・協働して支える意義を理解する。原因疾患、診断と治療について理解する。現在の認知症ケアの実際を学び家族も含めた支援の方法を理解する。また、「認知症になっても地域で暮らす」支援について学びを深める。</p> <p>【授業における達成課題】 ・ 認知症を取り巻く状況、ケアの理念・視点について理解することができる。 ・ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、さまざまなコミュニケーションの回り方、アプローチの仕方について理解できる。 ・ 家族支援、制度・サービスについて理解できる。</p>			
	使用教材	出版社	
学生用	最新 介護福祉士養成講座 認知症の理解	中央法規	
<p>【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>			
<p>【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>			
<p>【備考】 評価について：試験・授業態度の結果、A(80点以上)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 有・無</p>			
<p>【内容】 介護福祉士としての実務経験</p>			

科目名	認知症の理解	科目時間総数	30 限	教員名	阿部 真由美
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容			
1限	1年次	オリエンテーション			
	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症とは何か			
2限		脳の構造・機能			
3限		認知症の病理			
		うつを理解			
4限		認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	認知症の人の心理 心の理解		
			不安・喪失感・抑うつ状態		
5限			中核症状の理解		
			記憶障害・見当識障害・遂行機能障害		
6限			中核症状の理解		
	空間認知障害・四角失認・社会脳				
7限	中核症状の理解				
	高次機能障害・病識低下・神経症状				
8限	生活障害の理解				
	IADL障害・ADL障害・家族との関係・社会参加				
9限	BPSDの理解				
	要因と誘因				
10限	BPSDの理解の理解				
	主要なBOSDの種類				
11限	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解	認知症の診断と重症度判定			
12限		認知症の原因疾患と症状・生活障害			
		アルツハイマー型認知症・血管性認知症・レビー小体型認知症			
13限		認知症の原因疾患と症状・生活障害			
		前頭側頭型認知症・治療可能な認知症・若年性認知症			
14限		認知症治療薬			
15限		認知症予防			
		テスト			

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容
16限	2年次	認知症を取り巻く状況
	認知症を取り巻く状況	
17限	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	認知症ケアの理念と視点
		理念・現状・視点
認知症ケアの理念と視点		
気づきとかかわり		
18限		認知症当事者の視点
		認知症の人の思い・サポート方法
19限		認知症の進行
		初期・中期・後期・終末期
20限	パーソンセンタードケア	
21限	特性をふまえたアセスメント・ツール	
	センター方式・ひもときシート	
22限	認知症の人とのコミュニケーションとケア	
	BPSDのケア・活動・生きがいのケア	
23限	認知症の人とのコミュニケーションとケア	
	休息と睡眠のケア他	
24限	認知症の人へのアプローチ	
	ユマニチュード・バリデーション・DCM・回想法・聞き書き	
25限	終末期医療と介護 環境づくり	
	終末期の主な課題 環境づくりのポイント	
26限	家族への支援	家族支援
		支える視点・家族の心理過程と葛藤・レスパイトケア
27限		介護福祉職への支援
		職場環境の整備
28限	連携と協働	認知症の人の地域支援
		制度・サービス・機関・地域づくり
29限		多職種連携と協働
		修了テスト

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 障害の理解	教員名 畠山 修		
科目時間数 : 20 限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ <input type="checkbox"/> 実習		
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ <input type="checkbox"/> 選択	配当学年 : 1 年次	開講時期 : 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 戦後の福祉三法（身体障害者福祉法・生活保護法・児童福祉法）から、知的障害者福祉法など様々な法律が制定されましたが、この時代は「for you（措置）」の福祉であり、現代の障害者福祉は「with you（共生）」の福祉にパラダイム転換することが大きな課題となっています。皆さんがワーカーとして援助を実践するにあたり、どうしたら「with you」の福祉を実践できるのだろう？と考えたときに、障害者が健常者と同等の生活を送るための方略を考えていかなければなりません。そこで、本講義では障害者総合支援法制定までの流れを中心に、障害者主体のサービス提供方法について理解を深めていくことを目的とします。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 「障害者福祉」というジャンルが確立されるまでは、障害者は常に冷遇されてきた存在であり、時代によっては生きる権利さえも奪われてしまったという歴史があります。現代は障害者に対する様々な福祉サービスが確立されていますが、その背景には障害を持つ当事者達の絶え間ない努力や要望があったことを忘れてはなりません。「障害者は作られる」という視点に沿って講義を進めて行きたいと思います。</p> <p>【授業における達成課題】 現代社会における障害の概念と障害者の実態を把握する 障害者福祉の理念・目的・意義を理解する 障害者福祉におけるフォーマル・インフォーマルサービスを理解する</p>			
	使用教材	出版社	
学生・教員用	最新 介護福祉士養成講座 障害の理解	中央法規出版社	
<p>【使用教室】</p> <p>1. <input checked="" type="checkbox"/> HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）</p>			
<p>【評価方法】</p> <p>1. <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 2. レポート 3. <input checked="" type="checkbox"/> 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）</p>			
<p>【備考】</p> <p>評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。</p>			
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>			
<p>【内容】 労働行政機関におけるカウンセラー</p>			

科目名		科目時間総数	教員名
障害の理解		20 限	畠山 修
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	ガイダンス	ガイダンス・オリエンテーション	
2 限	①障害の基礎的理解	障害の概念とICD11、ICFの内容を整理し、障害者への生活支援の観点 を理解する	
3 限	"	障害者の概数と障害者の定義を理解し、障害者の法的根拠を理解する	
4 限	"	障害者の基本理念であるノーマライゼーションやリハビリテーション など、障害者支援を支える倫理や理念を理解する	
5 限	②障害の医学的・心理 的側面の基礎的理解	医学モデル・社会モデル、障害受容論、社会受容論を通して障害を持 つ人の心理的リハビリテーションの過程を理解する	
6 限	③障害のある人の生活と 障害の特性に応じた支援	肢体不自由の特性と心理・生活面の困りごとや支援方法を理解する	
7 限	"	視覚障害の特性と心理・生活面の困りごとや支援方法を理解する	
8 限	"	聴覚・言語障害の特性と心理・生活面の困りごとや支援方法を理解す る	
9 限	"	重複障害の特性と心理・生活面の困りごとや支援方法を理解する	
10 限	"	内部障害・重症心身障害・難病の特性と心理・生活面の困りごとや支 援方法を理解する	
11 限	"	知的障害の特性と心理・生活面の困りごとや支援方法を理解する	
12 限	"	発達障害の特性と心理・生活面の困りごとや支援方法を理解する	
13 限	"	精神障害・高次脳機能障害の特性と心理・生活面の困りごとや支援方 法を理解する	
14 限	"	障害を持つ人のライフステージを考慮し、QOLを高めるかかわりについ て理解する	
15 限	④連携と協働	障害者福祉サービスに関わる専門職や地域資源との連携方法を学ぶ	
16 限	"	事例を通し、多職種連携協働の意義を理解する	
17 限	⑤家族への支援	障害を持つ人の家族も同様に支援対象であることを理解する	
18 限	"	家族の課題や障害の受容に応じた関わり方を理解する	
19 限	"	事例を通し、ファミリーアプローチによる介護支援の方法を理解する	
20 限	まとめ	定期試験・レポート	
21 限			
22 限			
23 限			
24 限			
25 限			
26 限			
27 限			
28 限			

授業計画表

介護福祉 学科 盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 障害の理解	教員名 古舘 友師	
科目時間数 : 5 限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 選択	配当学年 : 1年次 開講時期 : 前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 障がいを持つ本人や家族の体験を理解し、障がい者自立支援の実践事例を通して学び、効果的な介護を目指す。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 障がいを持つ当事者との関わりから、障がい者の全体像、生活の実態等から総合的理解が図れるよう配慮するとともに、ソーシャル・インクルージョンが意識的に関連できるように努める。</p> <p>【授業における達成課題】 1 障害福祉サービスにおける各種サービス・専門職について説明することができる。 2 チームアプローチにおける、フォーマルとインフォーマルによるアプローチについて説明することができる。</p>		
	使用教材	出版社
学生用	最新・介護福祉士養成講座第2版 2022. 2. 1発行 [14] 障害の理解	中央法規出版
<p>【使用教室】 1. <input checked="" type="checkbox"/> HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>		
<p>【評価方法】 1. <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 2. レポート 3. <input checked="" type="checkbox"/> 出席 4. <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>		
<p>【備考】 1 筆記試験は60点以上を合格とする。</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>		
<p>【内容】 障害者施設での生活支援員及び相談支援員としての実務経験</p>		

科目名		科目時間総数	教員名
障害の理解		5 限	古館 友師
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<u>連携と協働</u> 地域のサポート体制	社会資源のとは何かを理解し、理想的な地域におけるサポート体制について学ぶ。	
2 限	〃	障害福祉サービスの支給決定プロセスを理解し、サービス等利用計画と個別支援計画の違いについて説明することができる。	
3 限	〃	相談支援の種類(役割)を3点挙げるができる。基幹相談支援センターの役割について理解する。	
4 限	〃	チームアプローチの必要性について学ぶ。チーム作りにおける課題を理解し、合意を目指す心構えについて学ぶ。	
5 限	修了試験		

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 障害の理解	教員名 古舘 友師	
科目時間数 : 5 限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 選択	配当学年 : 2年次 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中	
<p>【授業の目的・ねらい】 障がいを持つ本人や家族の体験を理解し、障がい者自立支援の実践事例を通して学び、効果的な介護を目指す。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 障がいを持つ当事者との関わりから、障がい者の全体像、生活の実態等から総合的理解が図れるよう配慮するとともに、ソーシャル・インクルージョンが意識的に関連できるように努める。</p> <p>【授業における達成課題】 家族支援について、障がい受容・社会環境等を構造的に捉え、その必要性を説明することができる。</p>		
	使用教材	出版社
学生用	新・介護福祉士養成講座2019.3.31発行 [14] 障害の理解	中央法規出版
<p>【使用教室】</p> <p>1. <input checked="" type="checkbox"/> HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()</p>		
<p>【評価方法】</p> <p>1. <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 2. レポート 3. <input checked="" type="checkbox"/> 出席 4. <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()</p>		
<p>【備考】</p> <p>1 筆記試験は60点以上を合格とする。</p>		
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>		
<p>【内容】 障害者施設での生活支援員及び相談支援員としての実務経験</p>		

科目名		科目時間総数	教員名
障害の理解		5 限	古舘 友師
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	家族への支援	家族支援は家族介護の肩代わり支援だけでないことを理解し、本人や家族へのアプローチ手法を学ぶ。	
2 限	〃	家族支援の事例をグループワークにより本人や家族心理について理解を深める。	
3 限	家族の状態の把握と介護負担の軽減	障害受容について理解し説明することが出来る。	
4 限	〃	発達段階における家族支援、及び地域生活における家族支援について学ぶ。	
5 限	修了試験		

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 こころとからだのしくみ I	教員名 中川 貴久江
科目時間数 : 15 限	授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 選択	配当学年 : 1年次 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 脳の仕組みと役割を理解し、からだとこころの関係性について理解を深めるとともに、高次機能障害や認知症、精神疾患、発達といった脳機能障害がある方への具体的な支援方法を学ぶ。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 脳機能を正しく理解し、行動と関連性を知ることが認知症への理解へとつながる。</p> <p>【授業における達成課題】 ・脳の仕組みを理解し、行動と脳の関係性について理解できる。 ・脳が障害されることによる種々の症状を知り、具体的な対処方法を説明できる。</p>	
	使用教材
出版社	
学生・教員用	最新 介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ
	中央法規出版
【使用教室】	
1. <input checked="" type="checkbox"/> HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()	
【評価方法】	
1. <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 2. レポート 3. <input checked="" type="checkbox"/> 出席 4. <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()	
【備考】	
【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無	
【内容】 看護師としての勤務経験	

科目名		科目時間総数	教員名
こころとからだのしくみ I		15 限	中川 貴久江
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	こころとからだのしくみ I こころのしくみの理解	講義の進め方について	
2 限	健康とは何か	健康の定義について理解し、	
3 限	心と脳の関係	脳の各部位のしくみを理解できる	
4 限	心と脳の関係	脳の各部位のしくみを理解できる	
5 限	心と脳の関係	脳の各部位のしくみを理解できる	
6 限	脳と失語症	ウェルニッケ野、ブローカー野の役割を理解し、失語症の症状を理解する	
7 限	脳と認知症	認知症の中核症状と周辺症状を理解する	
8 限	脳と発達障害	発達障害の種類を理解し、利用者が持つ困りごとをアセスメントする 視点を理解する	
9 限	脳と発達障害	事例を用いてアセスメント実施する	
10 限	欲求と欲求不満	人間の欲求について理解し、マズローの欲求階層説を説明できる	
11 限	欲求と欲求不満	自己実現について、自己実現と尊厳を学び利用者の生きがいを考えられる	
12 限	動機付け	内発的・外発的動機付けの役割を理解し、利用者のモチベーションを向上するかかわりについて理解を深める	
13 限	感情と発達	アタッチメント行動や愛着理論について理解し、感情の発達について理解する	
14 限	テスト対策	今までの授業の振り返りを行い、テストに向けた学習ができる	
15 限	修了試験		
16 限			
17 限			
18 限			
19 限			
20 限			
21 限			
22 限			
23 限			
24 限			
25 限			
26 限			
27 限			
28 限			

授業計画表

介護福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 こころとからだのしくみⅡ	教員名 中川貴久江
科目時間数 ： 1年37,5 2年7,5 限	授業の種類 ： <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ <input type="checkbox"/> 実習
必修・選択の別 ： <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	配当学年 ： 1,2年次 開講時期 ： <input checked="" type="checkbox"/> 前期・後期・集中
<p>【授業の目的・ねらい】 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①こころとからだの働きに関する基礎知識を学び、こころとからだのしくみが日常生活行動と結びついていることを学ぶ。② ①で学んだ知識を基に利用者の日常生活と介護実践を関連付けて学習する。</p> <p>【授業における達成課題】 ①こころとからだのしくみが生活行動の基盤になっていることを理解できる。 ②加齢に伴う心と身体の変化を学び、日常生活（清潔・食事・排泄・移動・身じたく）の自立支援に必要な知識を深め、日常生活支援に役立てることができる。 ③死生観について理解を深め死を迎えた人とその家族に対する支援の仕方について考えることができる。</p>	
	使用教材
出版社	
学生用	最新介護福祉士養成講座Ⅱ こころとからだのしくみ
教員用参考	最新・介護福祉士講座14 こころとからだのしくみ 最新介護福祉全書12 こころとからだのしくみ
	中央法規出版 中央法規出版 メヂカルフレンド社
<p>①. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）</p>	
<p>【評価方法】 ①. 筆記試験 2. レポート ③. 出席 ④. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）</p>	
<p>【備考】 評価について、筆記試験の点数によりA（80点以上）、B（79～70点以上）、C（69～60点以上）、D（59点以下）とする。また出席率（80%以上）及び授業態度（ルーブリック評価参考）も評価対象とする。</p>	
<p>【担当教員の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>	
<p>【内容】 看護師としての勤務経験</p>	

科目名		科目時間総数	教員名
こころとからだのしくみⅡ		37, 5 限	中川貴久江
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<u>からだのしくみの理解</u>	科目の学習の目的とポイント、授業の進め方について説明を受け、理解する	
2 限	<u>こころとからだのしくみⅡ</u>	人体を構成する細胞と染色体について理解する 身体各部の名称を言える	
3 限		脳の解剖と働きを理解する 末梢神経、特に自律神経の働きについて作用する対象ごとに説明でき	
4 限		感覚器について解剖とその働きを学ぶ 内臓の場所と名称を言える	
5 限		呼吸器系の解剖と名称を学び「内呼吸」「外呼吸」について説明できる①	
6 限		心臓の解剖と名称を学び「大循環」「小循環」について説明できる①	
7 限		血液、体液、リンパの働きを学ぶ。血液成分について種類と働きを説明できる	
8 限		振り返り（プリント使用）①	
9 限		消化管の部位と名称、それぞれの働きを学ぶ泌尿器の部位と名称、それぞれの働きを学ぶ	
10 限		全身の骨格の場所と名称を言える 骨・関節の動きと働きを学ぶ	
11 限		全身の筋肉の場所と名称を言える筋肉の働きと筋肉量の減少による影響を学び、減少予防の必要性を	
12 限		バランス、敏捷性の低下による影響を学び、低下予防の必要性を理解する。転倒の原因を6つあげることができる	
13 限		運動機能の低下からくる、サルコペニア、ロコモティブ症候群について知る	
14 限	心と身体の関係を理解する	ホルモンの働きについて理解する①	
15 限		ホルモンの働きについて理解する②	
16 限		ホメオスタシスと生命兆候について学ぶ	
17 限		介護福祉職に必要な薬の知識と他職種連携の必要性について学ぶ	
18 限	<u>移動に関連したこころとからだのしくみ</u>	移動するための身体のしくみを理解する ボディメカニクスについて説明できる	
19 限		移動の必要性和効果を説明できる臥位から立位、歩行するための身体のしくみについて理解する	
20 限		移動が不自由になる要因を考える廃用症候群や褥瘡に伴う機能低下について理解する	
21 限		日常生活の観察のポイントと医療職との連携のポイントを学ぶ達成度の確認（小テスト）②	
22 限	<u>身じたくに関連したこころとからだのしくみ</u>	身じたくの必要性和効果を説明できる身じたくのための心のしくみを理解する	
23 限		身じたくのための身体のしくみを理解する①【眼】【耳】身じたくのための身体のしくみを理解する③【鼻、皮膚】【口腔】機能低下が身	
24 限		日常生活の観察のポイントと医療職との連携のポイントを学ぶ①	
25 限	<u>食事に関連したこころとからだのしくみ</u>	食事の必要性和栄養素について理解する食事のための心のしくみを理解する	
26 限		食事のための身体のしくみを理解する①食事のための身体のしくみを理解する②「摂取嚥下5分類」の内容を理解し、説明できる	
27 限		治療食について、内容と適応する疾患について学ぶ治療食について、内容と適応する疾患について学ぶ	
28 限		機能低下が食事に及ぼす影響について説明できる①【精神機能と加齢】	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
29 限	<u>入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ</u>	機能低下が食事に及ぼす影響について説明できる②【病気と障害】
30 限		入浴・清潔保持の必要性と効果を説明できる
31 限		入浴・清潔保持のための心のしくみを理解する
32 限		入浴・清潔保持のための身体のしくみを理解する
33 限		機能低下が清潔保持に及ぼす影響について説明できる
34 限	清潔保持のしくみ達成度の確認	機能低下が清潔保持に及ぼす影響について説明できる
34 限	<u>排泄に関連したところとからだのしくみ</u>	日常生活の観察のポイントと医療職との連携のポイントを学ぶ①
35 限		達成度の確認（小テスト）⑤
36 限		排泄の必要性と効果を説明できる
37 限		排泄のための心のしくみを理解する
38 限		排泄のための身体のしくみを理解する
34 限	<u>排泄に関連したところとからだのしくみ</u>	機能低下が排泄に及ぼす影響について説明できる
35 限		日常生活の観察のポイントと医療職との連携のポイントを学ぶ①
36 限		達成度の確認（小テスト）⑥
37 限		学年末試験（0.5限）
38 限		

科目名		科目時間総数	教員名
こころとからだのしくみⅡ		7.5 限	中川貴久江
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	<u>休息・睡眠に関連した</u>	休息・睡眠の必要性と効果と説明でき、それに伴う心と体のしくみを理解する。 機能低下が睡眠に及ぼす影響について説明できる。	
2 限	<u>こころとからだのしくみ</u>		
3 限	休息・睡眠の達成度の確認	観察のポイントを挙げ、医療職と連携する必要性を理解する。	
4 限	<u>人生の最終段階のケア</u>	死の捉え方について考え、自分の死生観を話すことができる。死の受容のプロセスについて説明できる。 ①死生観・死のあり方を考える。 ②看取りについて	
5 限	<u>に関連したこころとからだのしくみ</u>		
6 限	死のケアに関連する達成度の確認 修了試験	終末期から危篤状態、死後の身体を理解する 観察のポイントを挙げ医療職と連携する必要性を理解する	
7 限	【0.5限】	達成度確認（プリント）	
8 限	2年次振り返り	定期試験（休息・睡眠のしくみ、死のケアのしくみ）	

授業計画表

介護福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 医療的ケア	教員名 長谷川 江利子	
科目時間数 : 85時間 (42.5限)	授業の種類 : <u>講義</u> ・ <u>演習</u> ・ 実習	
必修・選択の別 : <u>必修</u> ・ 選択	配当学年 : 1年次 ・ 2年次	開講時期 : <u>前期</u> ・ <u>後期</u> ・ 集中
<p>【授業の目的・ねらい】 介護福祉士が介護の専門職として何故医療的ケアを実践しなければならないのかをしっかりと理解し、そのうえで医療職との連携の下で医療的ケアを安全かつ適切に実施できるよう必要な基礎的知識・技術を身につけるための学習とする</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①医療的ケア実施の基礎 1年 (15時間) (7.5限) ②喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順) 2年 23時間 (座学11.5限) ③経管栄養法 (基礎的知識・実施手順 2年 22時間 (11限) ④演習 2年25時間 12.5限 (喀痰吸引6.5限・経管栄養6限) 予備18時間9限 (喀痰吸引5限・経管栄養4限)</p> <p>【授業における達成課題】 ①介護職が医療的ケアを実施するようになった背景を制度を通して理解し、説明できる。 ②医療的ケアを行う介護職の責任と行為範囲について理解し、説明できる。 ③医療的ケアを安全に適切に実施できる知識と技術を身につけ、確実な技術を提供できる。</p>		
	使用教材	出版社
学生用 教員用参考	最新介護福祉全書 1 3 医療的ケア 新・介護福祉士養成講座 1 5 医療的ケア 介護職員等のための医療的ケア 福祉資格テキスト 医療的ケア	メヂカルフレンド社 中央法規出版 全国訪問看護事業協会 ミネルヴァ書房
【使用教室】		
1. HR	2. <u>介護実習室</u>	3. 家政実習室
5. PC実習室	6. 接遇実習室	4. 視聴覚室 7. その他 ()
【評価方法】		
1. <u>筆記試験</u>	2. レポート	3. <u>出席</u>
5. <u>実技試験</u>	6. その他 ()	4. <u>授業態度</u>
【備考】		
演習は各行為毎に5回以上実施し「厚生労働省関連通知にある演習評価基準」で示す手順通りにできた場合のみ演習の終了を認めることとなっている。(最低でも5回は実施しなければならない) 筆記試験：60点以上が合格〔評価目安 A:80点以上、B:79点～70点、C:69点～60点、D:59点以下 (不合格)〕 出席率：学校の基準 (8割) を満たすこと。不足の場合は、Dとする。		
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> 無		
【内容】 看護師としての勤務経験		

科目名		医療的ケア	科目時間総数	1年 4時間 (2限)	教員名	長谷川 江利子
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標			
1 限	1時間	【1年】 医療的ケア実施の基礎	医療的ケアと喀痰吸引制度の背景を学び、介護福祉養成課程における医療的ケアの学習の必要性を知る			
	2時間					
2 限	3時間		医行為に関連する制度（介護保険制度、障害者総合支援制度、医療保険制度）制度の概要を説明できる			
	4時間					

科目名 医療的ケア		科目時間総数 1年 11時間 (5.5限)	教員名 長谷川 江利子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	【1年】 <u>医療的ケア実施の基礎</u>	オリエンテーション なぜ医療的ケアを学ぶのか	
2 限		医療的ケアの安全な実施の重要性 到達目標：喀痰吸引時の危険性について説明できる ヒヤリハット報告とアクシデント報告	
3 限		到達目標：ヒヤリハットとアクシデントの違いを説明でき、 ヒヤリハットに気づくことができる	
4 限		救急蘇生法 到達目標：心肺蘇生を行うと共にAEDも操作できる 感染予防の基本・介護職員の感染予防	
5 限		到達目標：スタンダードプリコーションについて説明できる	
5.5 限		療養環境の清潔・消毒法 到達目標：滅菌と消毒の違いを説明できる	

科目名	医療的ケア	科目時間総数	教員名
		2年 喀痰吸引 36時間 (18限)	長谷川 江利子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	【2年】 喀痰吸引 (基礎的知識・ 実施手順) 2年次	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸について
2 限		呼吸のしくみと働き	
3 限		いつもと違う呼吸状態	到達目標：異常呼吸に気づくことができる
4 限		喀痰吸引とは	
5 限		喀痰吸引で用いる器具・機材とそのしくみ・清潔の保持	
6 限		人工呼吸器と吸引・気管カニューレ内の吸引	
7 限		人口呼吸器装着者の生活支援上の留意点	
8 限		子どもの吸引	
9 限		喀痰吸引に伴うケア	到達目標：吸引の仕組みを理解できる
10 限		吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応・説明と同意	
11 限		到達目標：喀痰吸引を受ける利用者の気持ちに寄り添ったケアができる	
11.5 限	呼吸器系の感染と予防		
		喀痰吸引により生じる危険・事後の安全確認	
		到達目標：事故発生時スムーズな対応が頭の中でできる	
		急変・事故発生時の対応	
		急変・事故発生時の事前対策	
		報告及び記録	
		喀痰吸引の実施の手順と留意点	
		口腔内の喀痰吸引	
		鼻腔内の喀痰吸引	
		到達目標：口腔内・鼻腔内の吸引の手順を頭の中で実施できる	
		気管カニューレ内部の喀痰吸引	
		到達目標：気管カニューレ内部からの滅菌操作での吸引手順を頭の中で実施できる	
		修了筆記試験	答え合わせ
1 限	演習 2年次 実技試験	演習 口腔内の喀痰吸引	
2 限		演習 鼻腔内の喀痰吸引	
3 限		到達目標：安全に清潔に5回連続口腔内・鼻腔内からの吸引を実施できる	
4 限		演習 気管カニューレ内部の喀痰吸引	
5 限		到達目標：5回連続で安全に滅菌操作で気管カニューレ内部からの吸引を実施できる	
6 限		口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部からの吸引	
6.5 限		実技試験	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
合計		【実技試験達成目標】 5回連続で安全かつ適切に喀痰吸引を実施できること
1 限	実技予備	実技予備
2 限		実技予備
3 限		実技予備
4 限		実技予備
5 限		実技予備

科目名		科目時間総数	教員名
医療的ケア		2年 経管栄養 34時間 (17限)	長谷川 江利子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	【2年】 経管栄養 (基礎的知識・ 実施手順)	消化器系のしくみと働きについて説明できる	
2 限		消化器の症状からくるその原因を考察することができる	
3 限		経管栄養とは何か、その必要性について理解する	
4 限		経管栄養の種類と注入する栄養剤について関連付けて理解することができる	
5 限		経管栄養で起こり得る身体の異変について理解しその理由と対処法を考察することができる	
6 限		経管栄養の感染予防の必要性とその方法を学ぶ	
7 限		経管栄養を受ける利用者とその家族の気持ちを理解し、説明と同意の重要性とその方法を学ぶ	
8 限		経管栄養により生じる危険を理解し、ヒヤリハット・アクシデントについて学び実践できる	
9 限		経管栄養時に想定されるトラブルと対応事例について理解し、実際として考察することができる	
10 限		急変・事故発生時の対応方法を知り、再発防止に必要なことを説明できる。(医師、看護師との連携の必要性を学ぶ)	
11 限		経管栄養で用いる器具を、胃ろう、経鼻経管栄養、半固形栄養ごとに理解しその清潔方法を学ぶ	
1 限	演習	経管栄養実施時の観察事項を理解しその留意点を説明できる	
2 限		経管栄養実施手順と留意点を説明できる	
3 限		経管栄養に必要なケアについてその理由を考察することができる	
4 限		経管栄養実施後の報告と記録について、内容と方法を実践できる	
5 限		経管栄養の必要物品をあげ、その用途、取り扱いの留意点を説明できる	
6 限		経管栄養実施の観察ポイントを実施前、実施中、実施後にわけ整理できる	
7 限		経管栄養の実施にかかる事例検討の実施	
8 限		経管栄養時に起こるトラブルと対応例について意見を出せる	
9 限		経管栄養実施の報告項目とその内容を説明できる	
10 限		胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法を理解し手順を説明できる	
11 限		経鼻経管栄養法を理解し手順を説明できる	
1 限	2年次 実技試験	総まとめ、振り返り	
2 限		演習の説明 筆記試験 答え合わせ	
3 限		経鼻経管栄養法を理解し実施できる	
4 限		胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法を理解し実施できる	
5 限		経鼻経管栄養法を理解し実施できる	
6 限	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養法を理解し実施できる		
7 限	経鼻経管栄養		
8 限	胃ろう経管栄養		

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
6 限		【実技試験達成目標】 5回連続で安全かつ適切に経管栄養を実施できること
合計		
1 限	実技予備	実技予備
2 限		実技予備
3 限		実技予備
4 限		実技予備